

文部科学省委託事業  
令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」  
「先端IT人材育成学科新設プログラム開発事業」

---

---

# AI、IoT 等の成長分野技術導入ニーズアンケート 及び専門学生に求める IT 系必要スキル アンケート調査報告書

---

---

## 【企業編】

学校法人穴吹学園 穴吹ビジネス専門学校

本アンケートは、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人穴吹学園 穴吹ビジネス専門学校が実施した令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」の成果物です。



# 目次

<b>1. 概要</b> .....	<b>1</b>
<b>2. 趣旨・目的</b> .....	<b>1</b>
<b>3. AI、IoT 等の成長分野技術導入ニーズアンケート及び 専門学生に求める IT 系必要スキル調査アンケート調査</b> .....	<b>2</b>
3-1. 調査方法.....	2
3-2. 調査項目 .....	2
3-3. 調査結果 .....	4
<b>4. 講評</b> .....	<b>45</b>
<b>5. アンケート調査票</b> .....	<b>48</b>

# 1. 概要

---

本事業は、VUCA時代、社会環境が複雑性を増し将来の予測が困難な状況になってきている。IT技術の進展により産業構造や競争原理が変化しており、これに適応しIT活用による企業競争力強化や付加価値を高めることは、産業界において不可欠である。とりわけ先端IT人材は、2030年に約45万人が不足、需要が伸びなかった場合でも約16万人が不足すると試算されており(2019年経済産業省)その人材育成は急務である。

また、地方におけるIT人材不足は顕著であり、需要ギャップを補うためにも専門学校におけるIT人材育成の役割は非常に重要となっている。そこで、本事業では、本校近隣地域に多い製造業を主として企業・団体と連携し、先端IT技術適用を思考し活用できる人材育成プログラムを開発する。IT人材育成にはまず間口を広げ、苦手意識を持たないよう学びやすさへの対応も必要であると考え。IT技術やそれを応用した便利なサービスを体験することで、先端IT技術を学ぶ必要性、動機付けを喚起する。検証を重ねた開発プログラムは、今後専門学校において、例えば商業分野からIT分野への学科の転換・新設を図る際のモデルカリキュラムとして活用され、将来の先端IT人材育成に繋げるべく学科の理系転換等の再編を推進・支援することを目的とする。本調査「AI、IoT等の成長分野技術導入の企業ニーズアンケート」を行い専門学生に求めるIT系必要スキル情報を把握する。

## 2. 趣旨・目的

---

この調査は、現場で求められるIT人材やスキル、成長分野技術の導入状況や必要度を調査することで、不足するIT人材を補うことのできる人材育成へと繋げられるモデルカリキュラムの開発を目的とする。

本調査を通して成長分野技術の導入・活用状況や現場で求めるスキルの程度、専門学生に求めるIT系スキル、及びスキル習得した学生の人材確保と活用について調査を行い、現場の課題、求めるIT人材・スキル、成長分野技術の導入状況、緊要度、活用事例について明らかにする。

## 3. AI、IoT 等の成長分野技術導入ニーズアンケート及び専門学生に求める IT 系必要スキル調査アンケート調査

---

### 3-1. 調査方法

(1) 調査手法

郵送及び Web(Google フォーム)による配布及び回収を実施した。

(2) 調査対象

広島県及び岡山県の企業名簿より、無作為に 300 社の事業所を抽出し、返信用封筒を同封した郵送法でアンケート調査を実施した。

(3) アンケート実施(内訳)

対象…………… 福山市を中心に岡山・広島県内の主に製造業を対象とし、併せて卸売業、小売業、情報通信業、建設業の企業も対象とした。

合計…………… 300企業が母数

回答数…………… 65件

(4) 調査日程

令和 6 年 11 月 1 日～11 月 25 日

(5) 回収結果

有効回答数は 65 件(有効回収率 21.6%)。

### 3-2. 調査項目

1. 企業概要
問1-1 所在地
問1-2 業種
問1-3 従業員規模
問1-4 取り扱う製品・カテゴリ
問1-5 回答者の役職や部署

## 2. 調査項目

### 2. 貴社の採用の状況及び意向

- 問2-1 専門学校生の採用実績
- 問2-2 専門学生を採用するメリット
- 問2-3 IT関連技術の分野(プログラマーやシステムエンジニア等)に特化した人材の採用

### 3. 貴社のIT、情報システム部署の状況

- 問3-1 現在のIT、情報システム部署の人数
- 問3-2 IT導入、開発・運用についての体制
- 問3-3 ITシステムの業務利用状況(複数回答可)
- 問3-4 AI、ビッグデータ、IoT等の技術導入事例の有無
- 問3-5 ChatGPTなどの生成AIの活用状況(複数回答可)
- 問3-6 生成AI等の利用状況(複数回答可)
- 問3-7 IT活用業務経験

### 4. 貴社の専門学校への要望

- 問4-1 専門学校にて身につけてほしいITスキル
- 問4-2 専門学校にて身につけておいて欲しいAI関連スキル
- 問4-3 専門学校の授業でChatGPTなどの生成AIの活用の意向
- 問4-4 特有の人材の必要度
- 問4-5 専門学校の学生(卒業生)に求めるIT、AIを活用したビジネススキル
- 問4-6 専門学校生に求めるビジネス資質
- 問4-7 学生インターンシップの実施状況
- 問4-8 専門学校と企業連携を行う場合の意向
- 問4-9 企業連携の実習やインターンシップの実施における課題

### 5. 今後の貴社で望む人材

- 問5-1 AI、ビッグデータ、IoTを業務でどの程度のレベルの人材を望むか

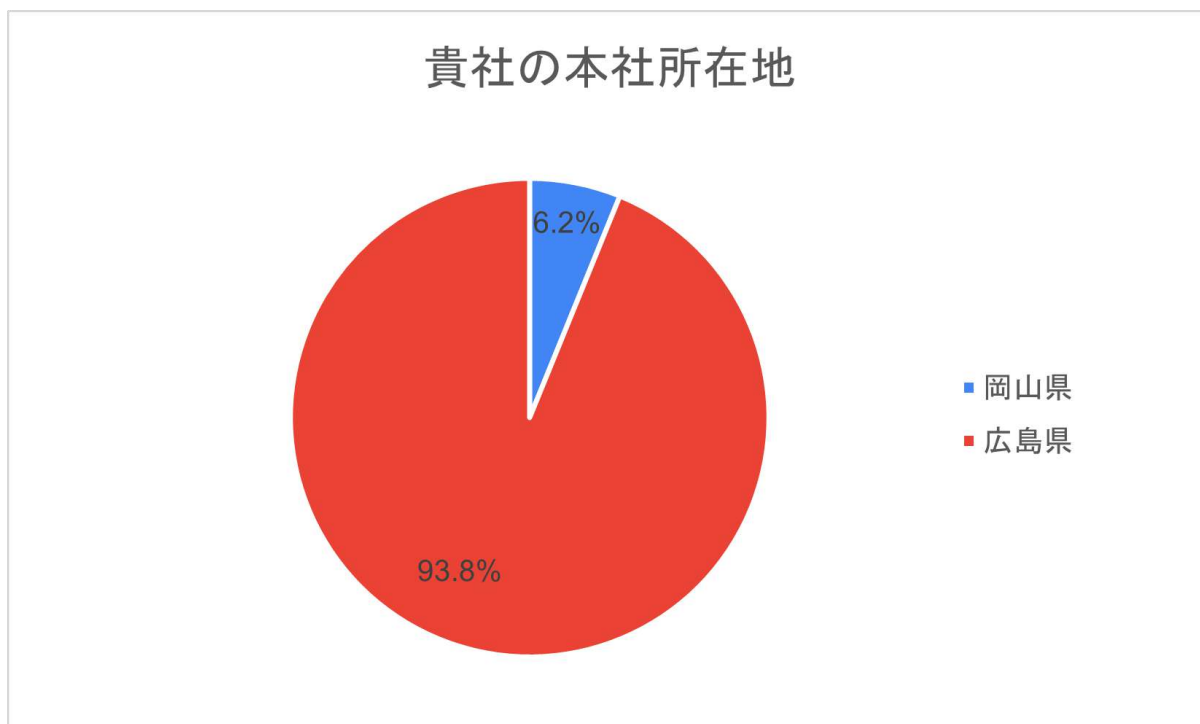
### 6. 自由記述

- 問6-1 企業のIT、AIの活用できる人材確保等について意見

### 3-3. 調査結果

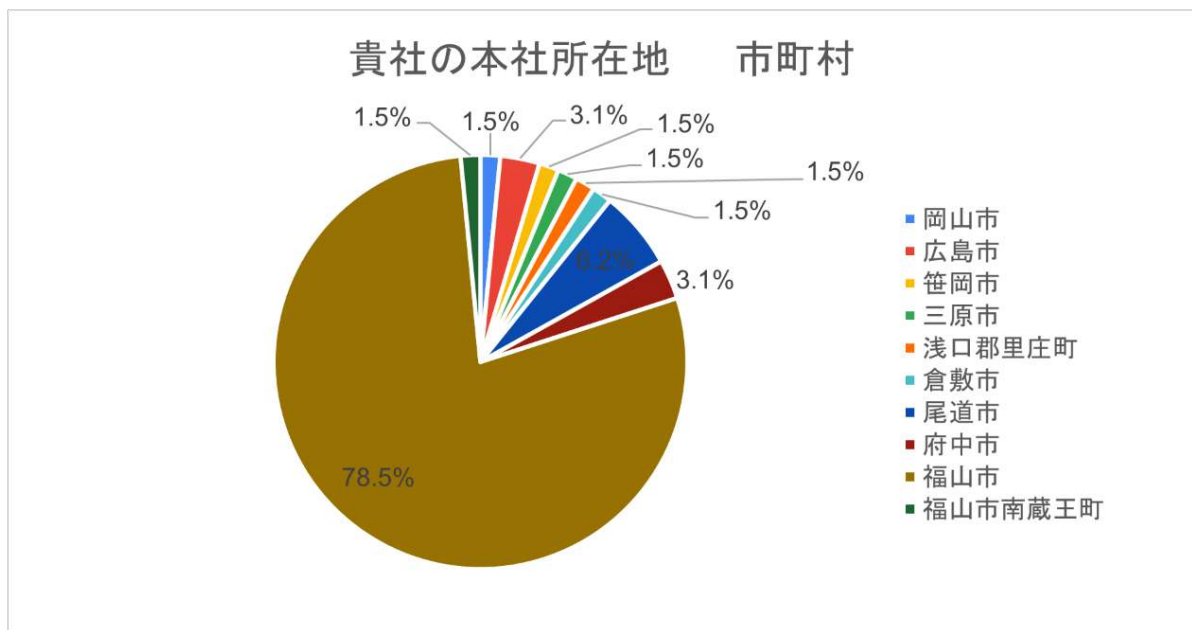
【問 1-1】 貴社の概要について

岡山県	4
広島県	61



本調査の回答で多いものから順に、広島県 61 件(93.8%)、岡山県 4 件(6.2%)だった。全体の 9 割以上が広島県からの回答となった。

岡山市	1
広島市	2
笠岡市	1
三原市	1
浅口郡里庄町	1
倉敷市	1
尾道市	4
府中市	2
福山市	51
福山市南蔵王町	1

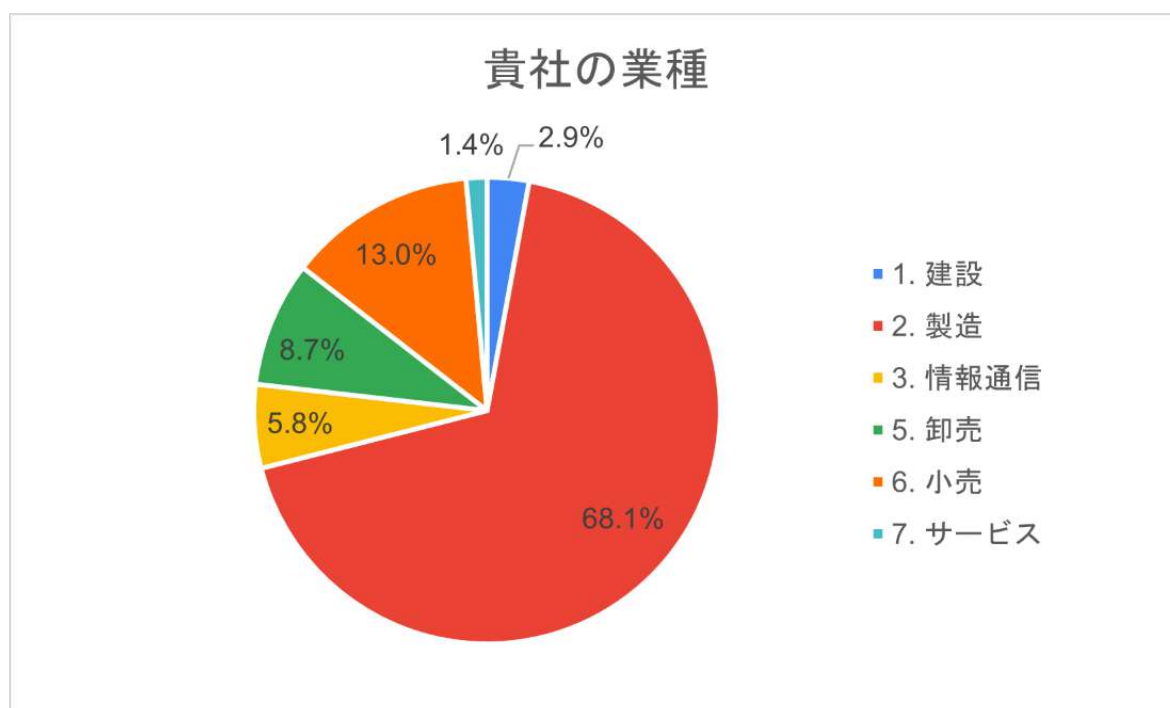


本調査の回答で多いものから順に、福山市 51 件(78.5%)、尾道市 4 件(6.2%)、広島市・府中市 2 件(3.1%)であった。多くは福山市からの回答となった。



【問 1-1-2】貴社の業種(複数回答可)

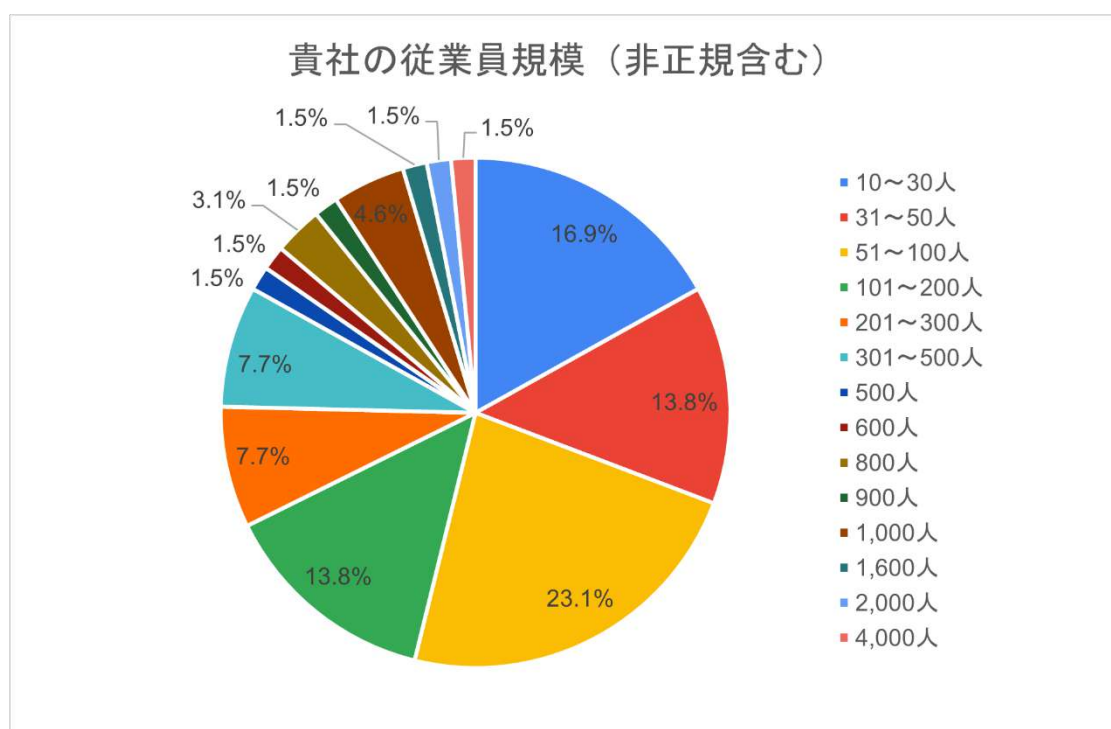
1. 建設	2
2. 製造	47
3. 情報通信	4
5. 卸売	6
6. 小売	9
7. サービス	1



本調査の回答で多いものから順に、製造47件(68.1%)、小売9件(13.0%)、卸売6件(8.7%)であった。

【問 1-1-3】 貴社の従業員規模(非正規含む)

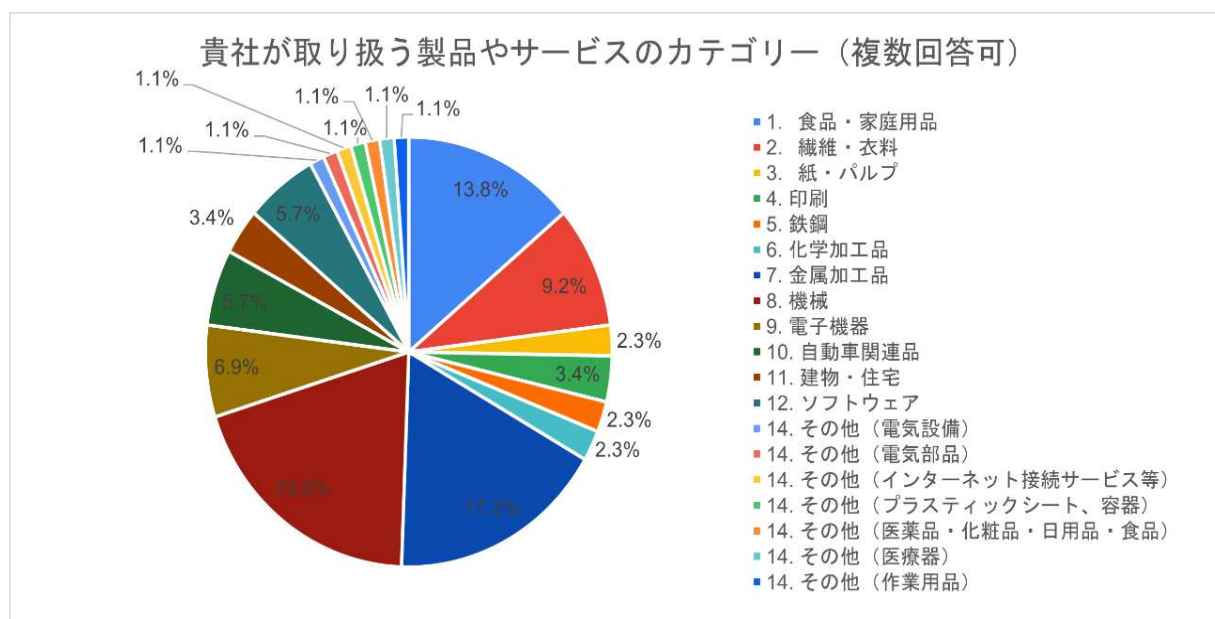
10~30人	11
31~50人	9
51~100人	15
101~200人	9
201~300人	5
301~500人	5
500人	1
600人	1
800人	2
900人	1
1,000人	3
1,600人	1
2,000人	1
4,000人	1



本調査の回答で多いものから順に、51~100人 15件(23.1%)、10~30人 11件(16.9%)、31~50人・101~200人 9件(13.8%)であった。100人以下の企業が半数以上を占めており、比較的小規模の企業が多いことが分かる。

【問 1-1-4】 貴社が取り扱う製品やサービスのカテゴリー(複数回答可)

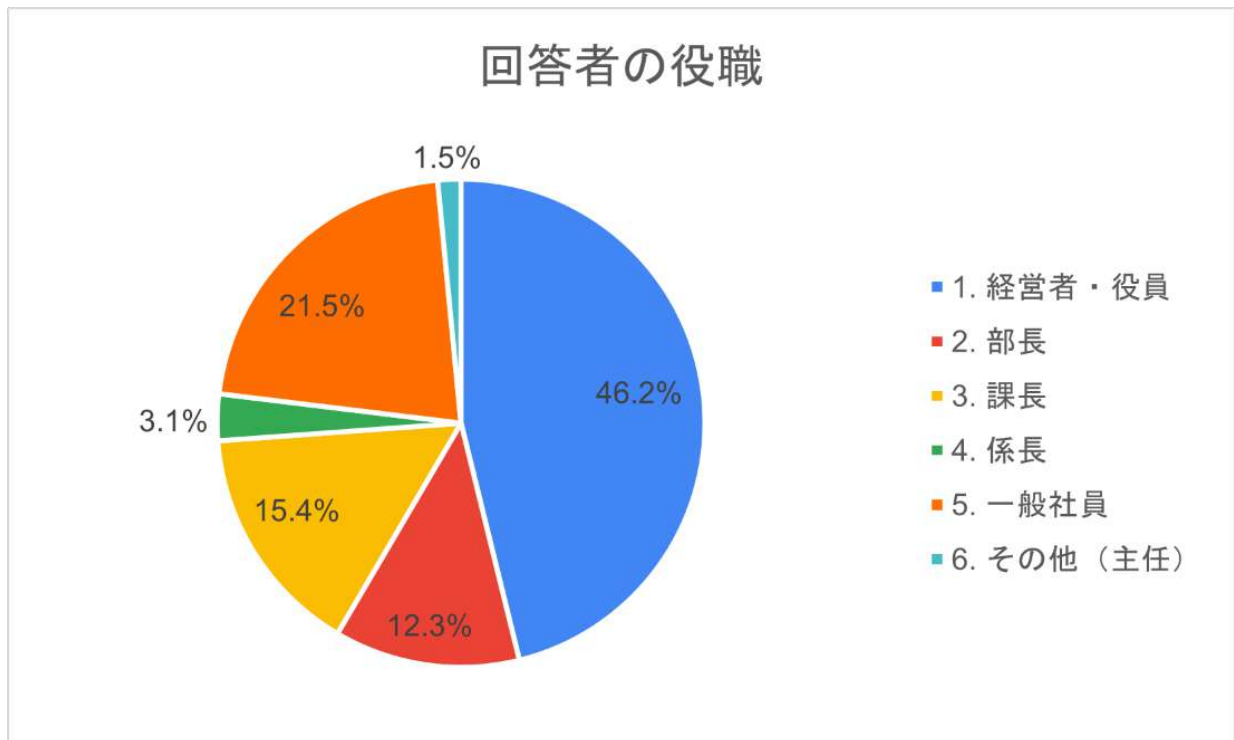
1. 食品・家庭用品	12
2. 繊維・衣料	8
3. 紙・パルプ	2
4. 印刷	3
5. 鉄鋼	2
6. 化学加工品	2
7. 金属加工品	15
8. 機械	17
9. 電子機器	6
10. 自動車関連品	5
11. 建物・住宅	3
12. ソフトウェア	5
14. その他(電気設備)	1
14. その他(電気部品)	1
14. その他(インターネット接続サービス等)	1
14. その他(プラスチックシート、容器)	1
14. その他(医薬品・化粧品・日用品・食品)	1
14. その他(医療器)	1
14. その他(作業用品)	1



本調査の回答で多いものから順に、機械 17 件(19.5%)、金属加工品 15 件(17.2%)、食品・家庭用品 12 件(13.8%)であった。その他の回答も多かったことから、幅広いジャンルの企業から回答を得られた。

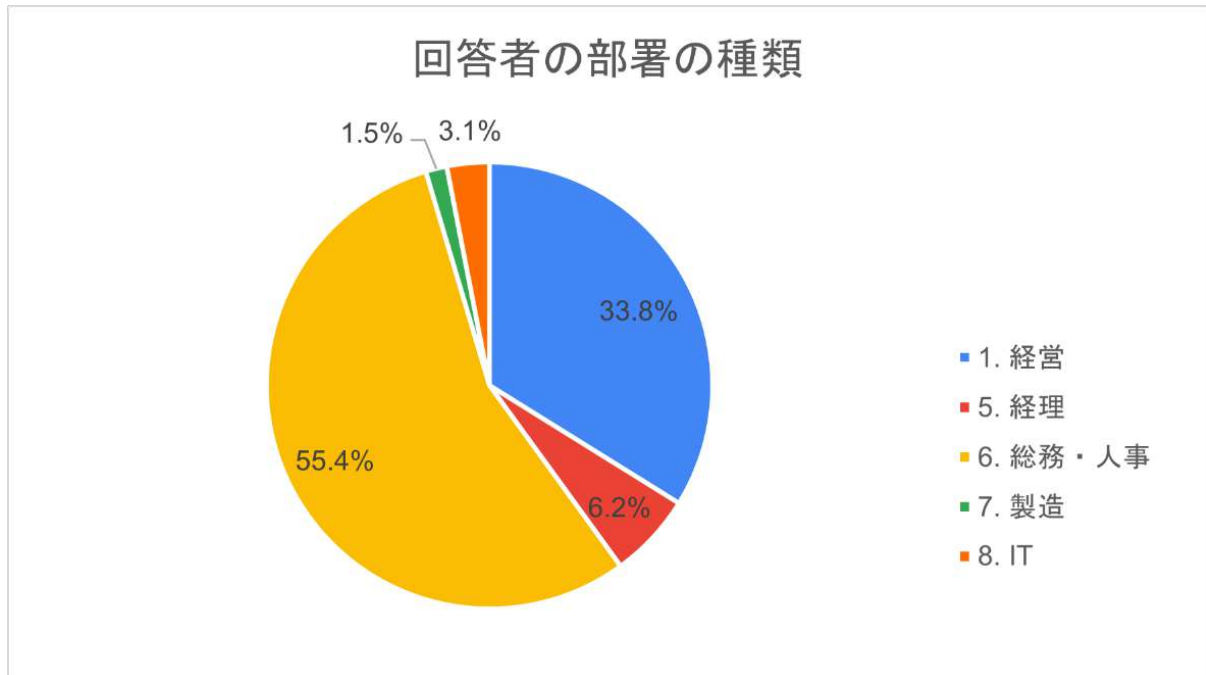
【問1-1-5】 回答者の役職や部署の種類

1. 経営者・役員	30
2. 部長	8
3. 課長	10
4. 係長	2
5. 一般社員	14
6. その他(主任)	1



本調査の回答で多いものから順に、経営者・役員 30 件(46.2%)、一般社員 14 件(21.5%)、加藤 10 件(15.4%)であった。経営者と現場従業員それぞれの回答が得られている。

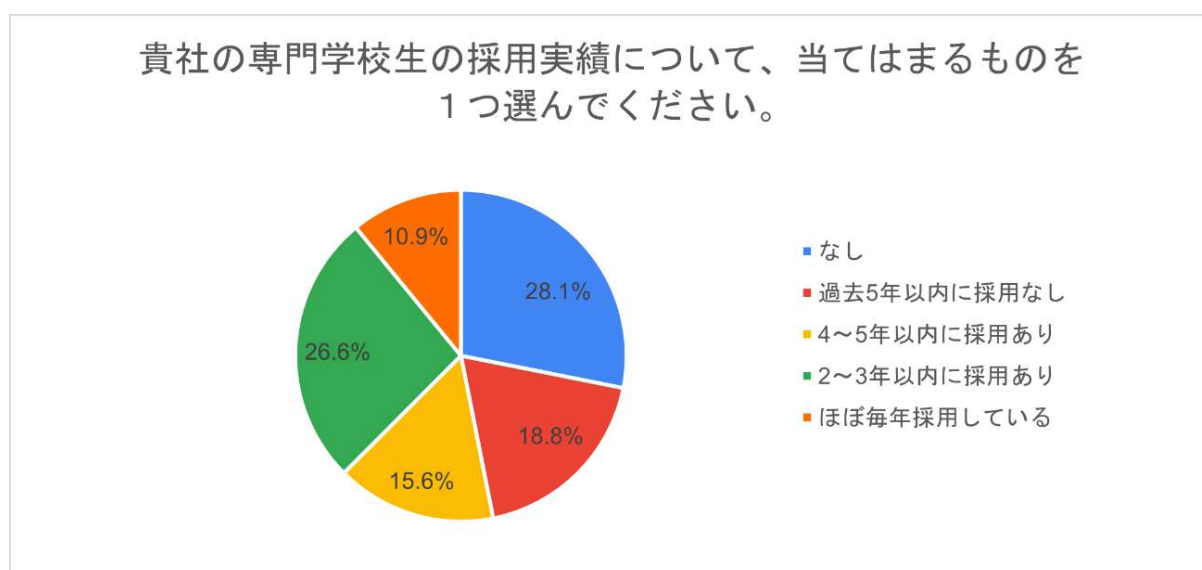
1. 経営	22
5. 経理	4
6. 総務・人事	36
7. 製造	1
8. IT	2



本調査の回答で多いものから順に、総務・人事 36 件(55.4%)、経営 22 件(33.8%)、経理 4 件(6.2%)であった。総務や経営といった会社の中心を担う立場からの回答が多く得られた。

【問 2-1】貴社の専門学校生の採用実績

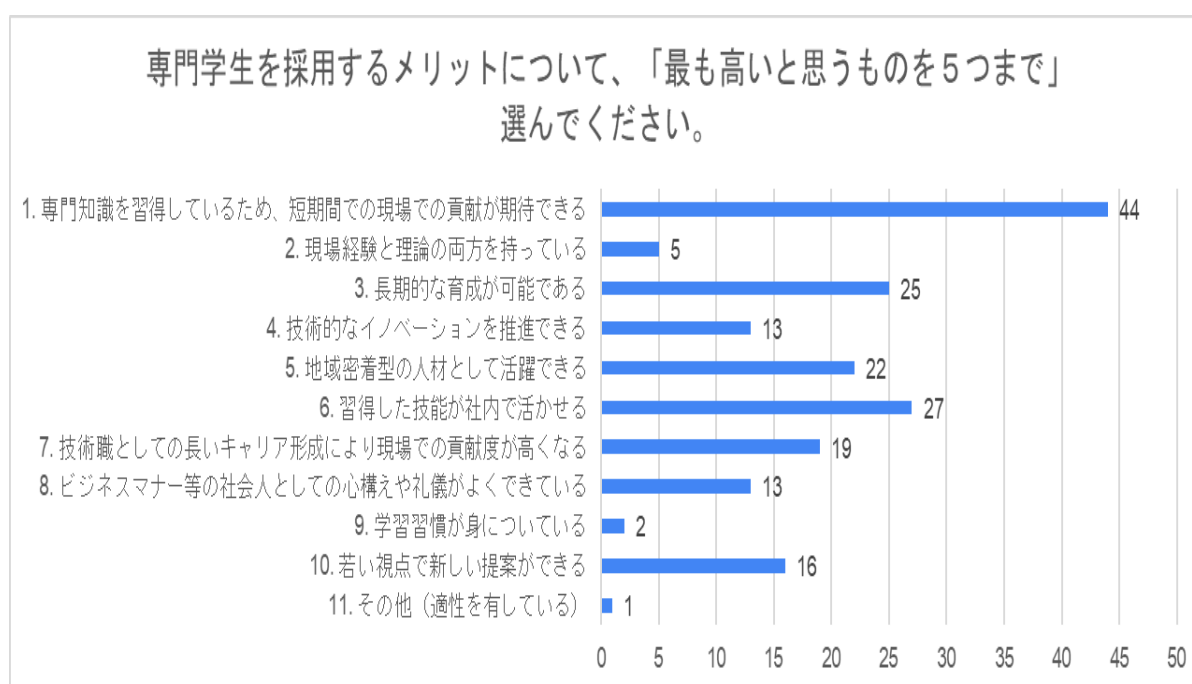
なし	18
過去 5 年以内に採用なし	12
4～5 年以内に採用あり	10
2～3 年以内に採用あり	17
ほぼ毎年採用している	7



本調査の回答で多いものから順に、なし 18 件(28.1%)、2～3 年以内に採用あり 17 件(26.6%)、過去 5 年以内に採用なし 12 件(18.8%)であった。3 年以上採用がない企業が半数を超えていることから、専門学校生の採用についてあまり活発な様子は見られない。

【問 2-2】 専門学生を採用するメリット

1. 専門知識を習得しているため、短期間での現場での貢献が期待できる	44
2. 現場経験と理論の両方を持っている	5
3. 長期的な育成が可能である	25
4. 技術的なイノベーションを推進できる	13
5. 地域密着型の人材として活躍できる	22
6. 習得した技能が社内で活かせる	27
7. 技術職としての長いキャリア形成により現場での貢献度が高くなる	19
8. ビジネスマナー等の社会人としての心構えや礼儀がよくできている	13
9. 学習習慣が身についている	2
10. 若い視点で新しい提案ができる	16
11. その他(適性を有している)	1

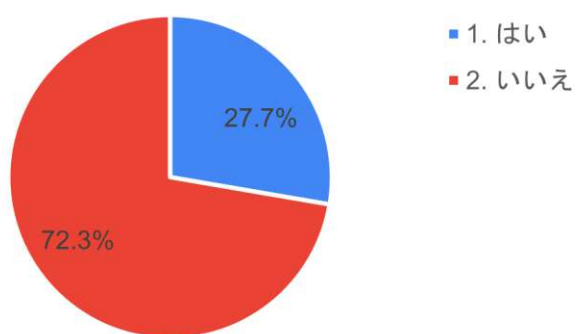


本調査の回答で多いものから順に、専門知識を習得しているため、短期間での現場での貢献が期待できる 44 件、習得した技能が社内で活かせる 27 件、長期的な育成が可能である 25 件であった。どの会社も即戦力となるメリットを重視している傾向が見られる。

【問 2-3】 IT 関連技術の分野(プログラマーやシステムエンジニア等)に特化した人材の採用

1. はい	18
2. いいえ	47

IT関連技術の分野（プログラマーやシステムエンジニア等）に特化した人材の採用を行っていますか。  
当てはまるものを1つ選んでください。

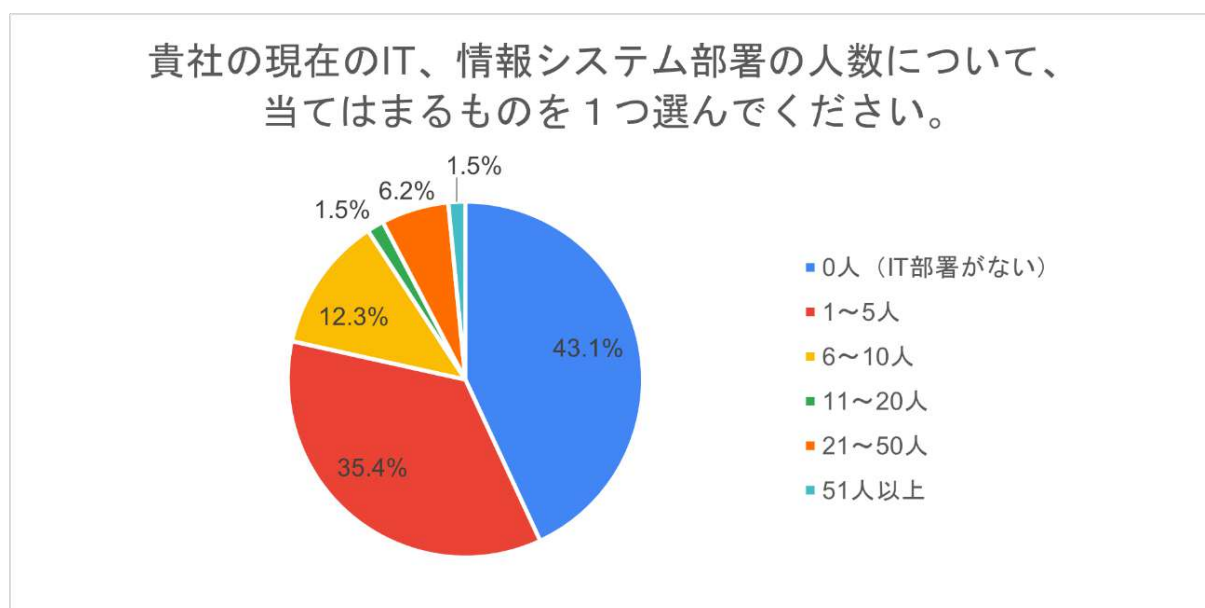


本調査の回答でははい18件(27.7%)、いいえ47件(72.3%)であった。IT関連の人材採用はまだあまり広がりを見せていない。



【問 3-1】 貴社の現在の IT、情報システム部署の人数

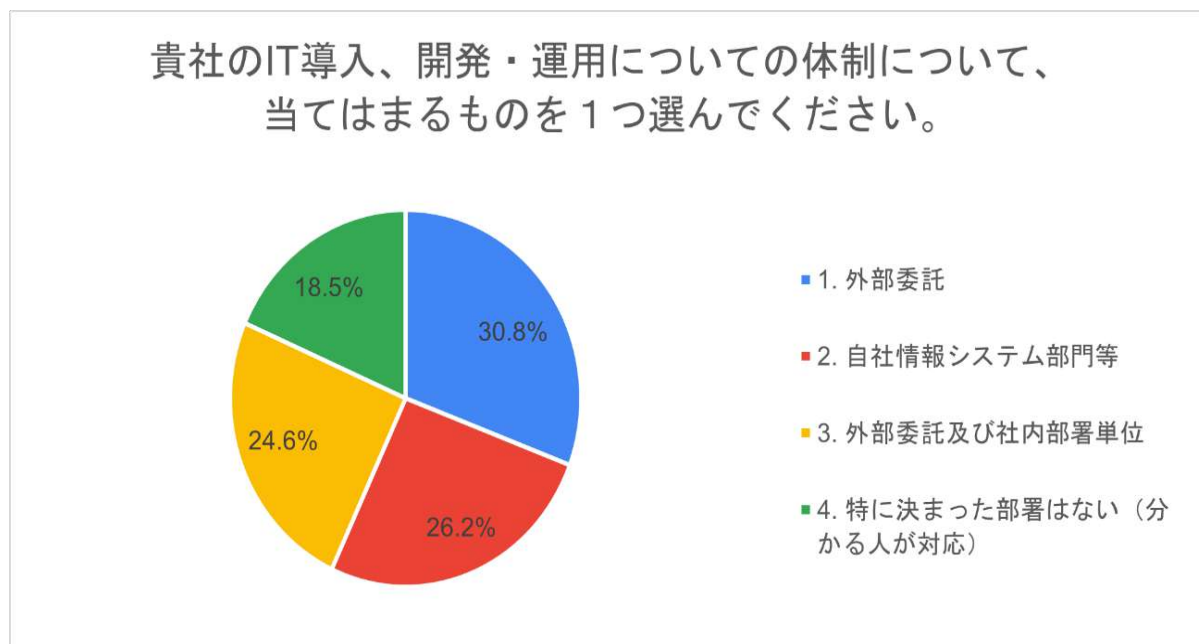
0人(IT部署がない)	28
1~5人	23
6~10人	8
11~20人	1
21~50人	4
51人以上	1



本調査の回答で多いものから順に、0人(IT部署がない)28件(43.1%)、1~5人23人(35.4%)、6~10人8件(12.3%)であった。IT関連の部署があるところでも少人数の割合の方が高くなっている。

【問 3-2】 貴社の IT 導入、開発・運用についての体制

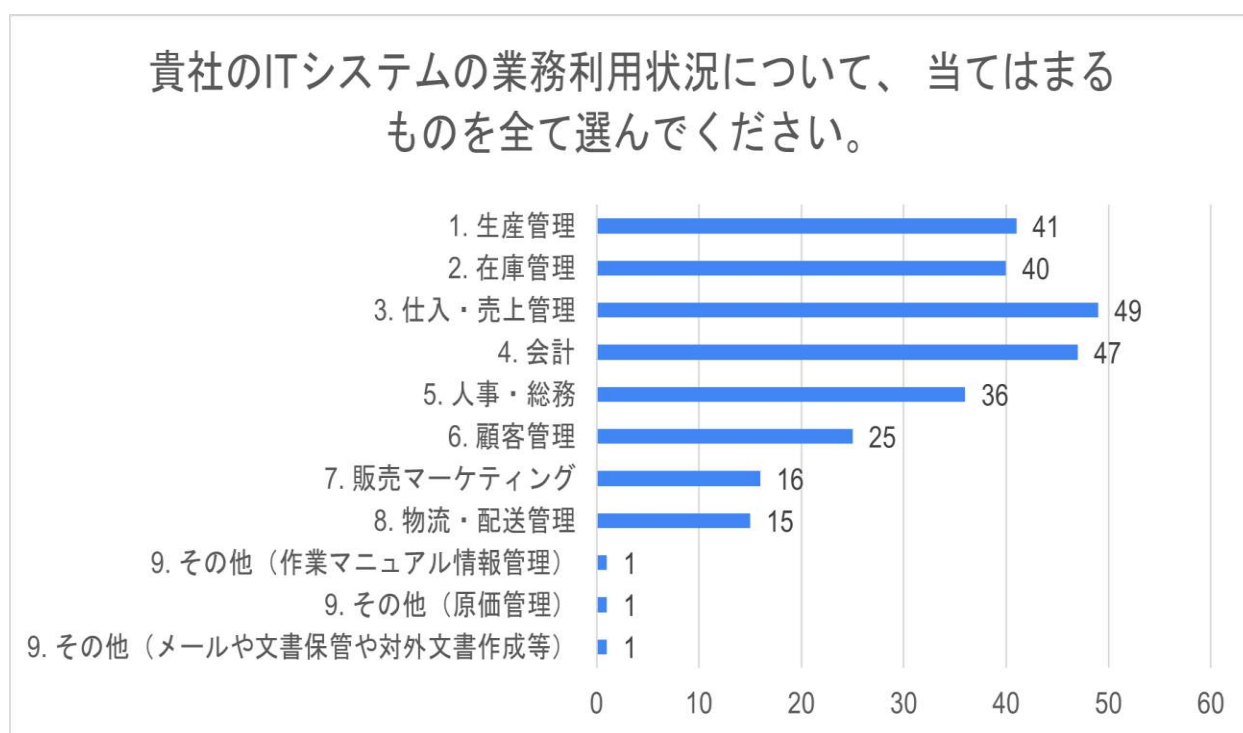
1. 外部委託	20
2. 自社情報システム部門等	17
3. 外部委託及び社内部署単位	16
4. 特に決まった部署はない(分かる人が対応)	12



本調査の回答で多いものから順に、外部受託 20 件(30.8%)、自社情報システム部門等 17 件(26.2%)、外部委託及び社内部署単位 16 件(24.6%)であった。外部受託を取り入れている企業が半数以上であることから、IT にかかわる人材と体制共に広がりを見せていない。

【問3-3】 貴社のITシステムの業務利用状況について、当てはまるものを全て選んでください。

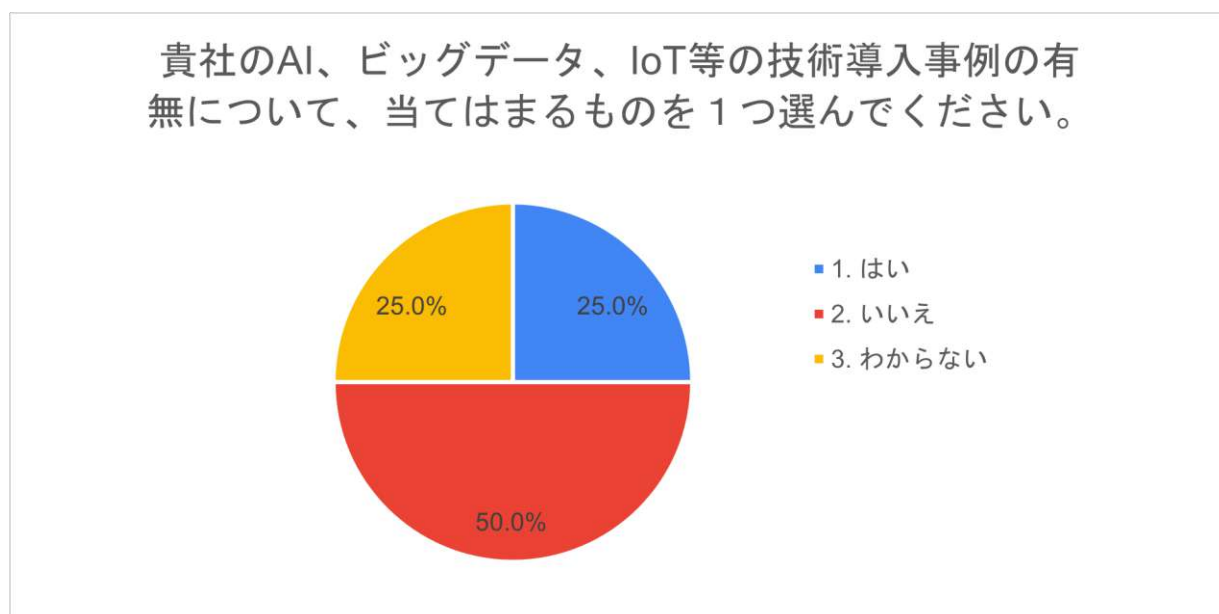
1. 生産管理	41
2. 在庫管理	40
3. 仕入・売上管理	49
4. 会計	47
5. 人事・総務	36
6. 顧客管理	25
7. 販売マーケティング	16
8. 物流・配送管理	15
9. その他(作業マニュアル情報管理)	1
9. その他(原価管理)	1
9. その他(メールや文書保管や対外文書作成等)	1



本調査の回答で多いものから順に、仕入・売上管理 49 件、会計 47 件、生産管理 41 件であった。製造業の企業が多いことから、生産・在庫・売上関連への利用が高くなっている。

【問3-4】 貴社のAI、ビッグデータ、IoT等の技術導入事例の有無について、当てはまるものを1つ選んでください。

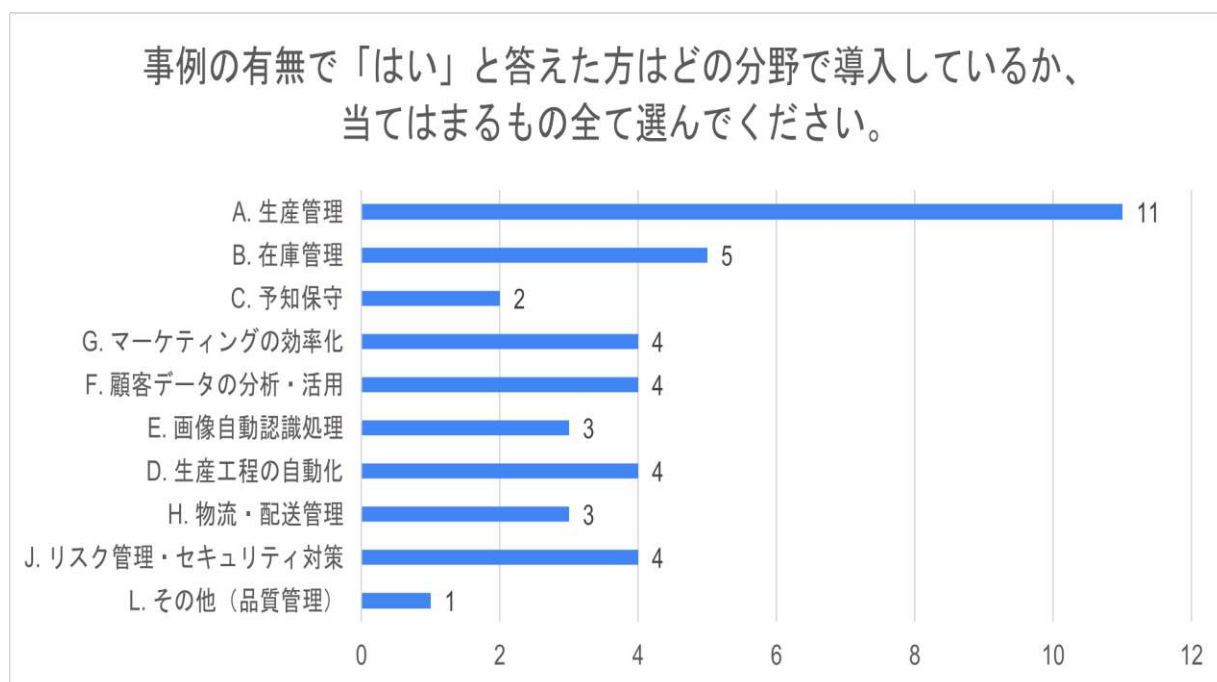
1. はい	16
2. いいえ	32
3. わからない	16



本調査の回答で多いものから順に、いいえ 32 件(50.0%)、はい・わからない 16 件(25.0%)であった。IT 関連の人材が少ないこともあり、導入事例がある企業数も少ない。

【問 3-4】 事例の有無で「はい」と答えた方はどの分野で導入しているか。

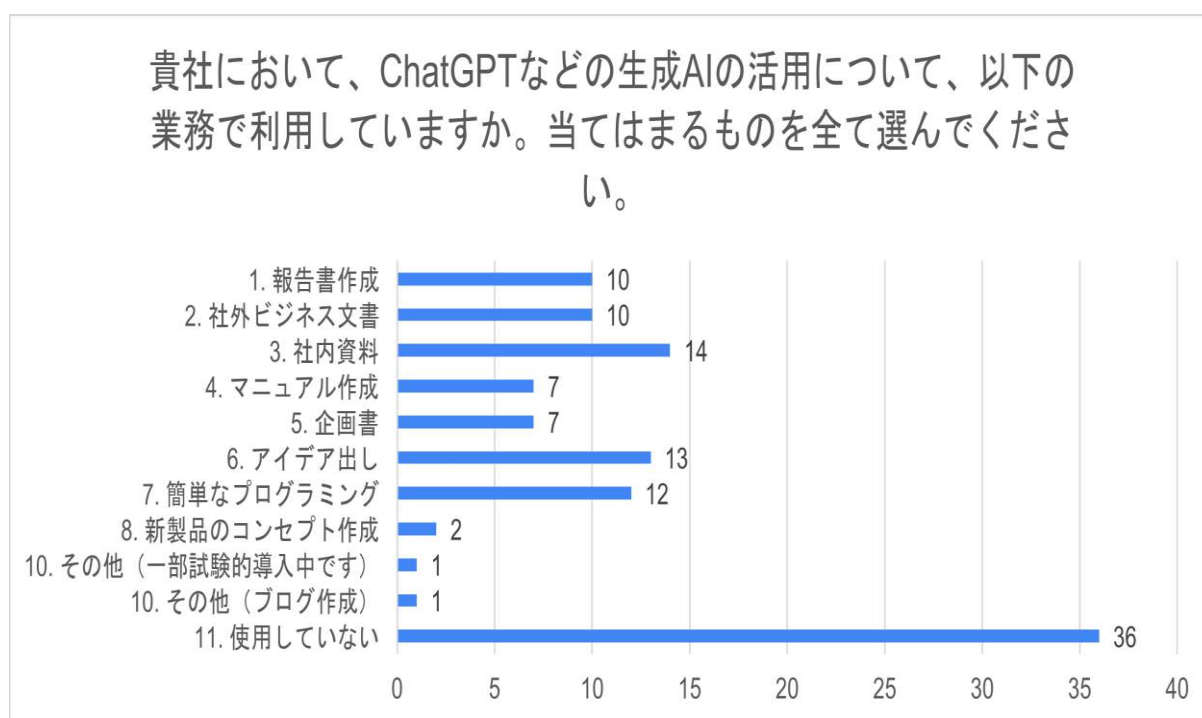
A. 生産管理	11
B. 在庫管理	5
C. 予知保守	2
D. 生産工程の自動化	4
E. 画像自動認識処理	3
F. 顧客データの分析・活用	4
G. マーケティングの効率化	4
H. 物流・配送管理	3
J. リスク管理・セキュリティ対策	4
L. その他(品質管理)	1



本調査の回答で多いものから順に、生産管理 11 件、在庫管理 5 件となっている。生産管理が突出しているが、それ以外の項目は横ばいであることから、幅広い分野で活用されていることが分かる。

【問 3-5】 ChatGPT などの生成 AI の活用状況

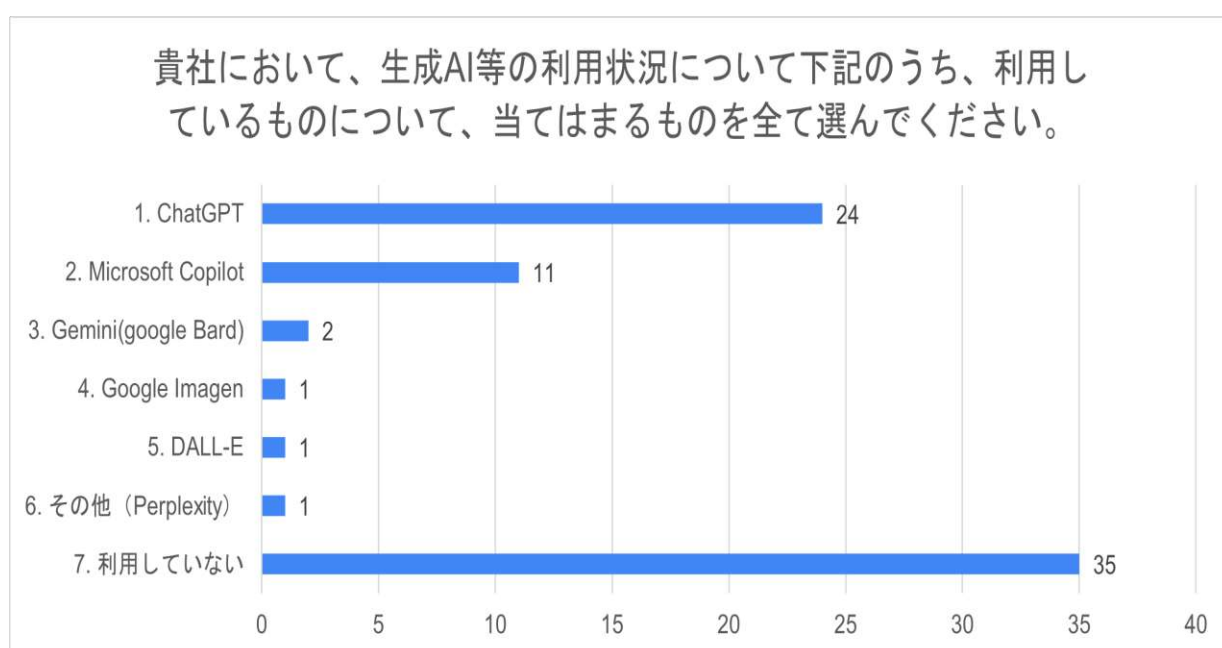
1. 報告書作成	10
2. 社外ビジネス文書	10
3. 社内資料	14
4. マニュアル作成	7
5. 企画書	7
6. アイデア出し	13
7. 簡単なプログラミング	12
8. 新製品のコンセプト作成	2
10. その他(一部試験的導入中です)	1
10. その他(ブログ作成)	1
11. 使用していない	36



本調査の回答で多いものから順に、使用していない 11 件、社内資料 14 件、アイデア出し 13 件であった。様々な資料作成で生成 AI を活用していることが分かるが、多くの企業では活用自体がされていない。

【問 3-6】 生成 AI 等の利用状況について下記のうち、利用しているもの

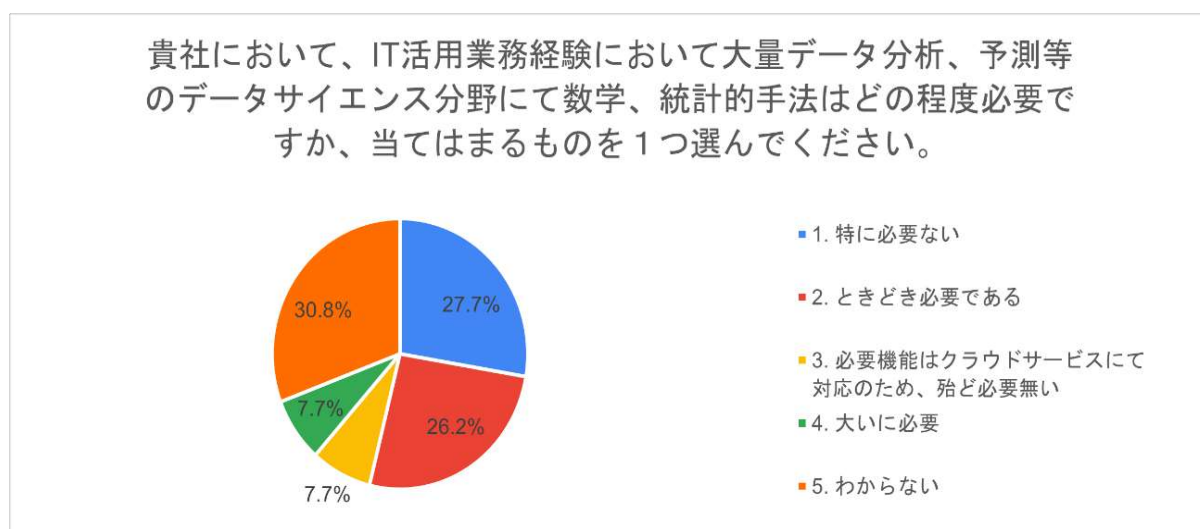
1. ChatGPT	24
2. Microsoft Copilot	11
3. Gemini(google Bard)	2
4. Google Imagen	1
5. DALL-E	1
6. その他(Perplexity)	1
7. 利用していない	35



本調査の回答で多いものから順に、利用していない 35 件、ChatGPT24 件、Microsoft Copilot11 件であった。世間で多く流通しているものに回答が集中しているが、前設問同様利用していない企業が多い。

【問 3-7】 貴社の IT 活用業務経験において、大量データ分析、予測等のデータサイエンス分野にて数学、統計的手法はどの程度必要

1. 特に必要ない	18
2. ときどき必要である	17
3. 必要機能はクラウドサービスにて対応のため、殆ど必要無い	5
4. 大いに必要	5
5. わからない	20



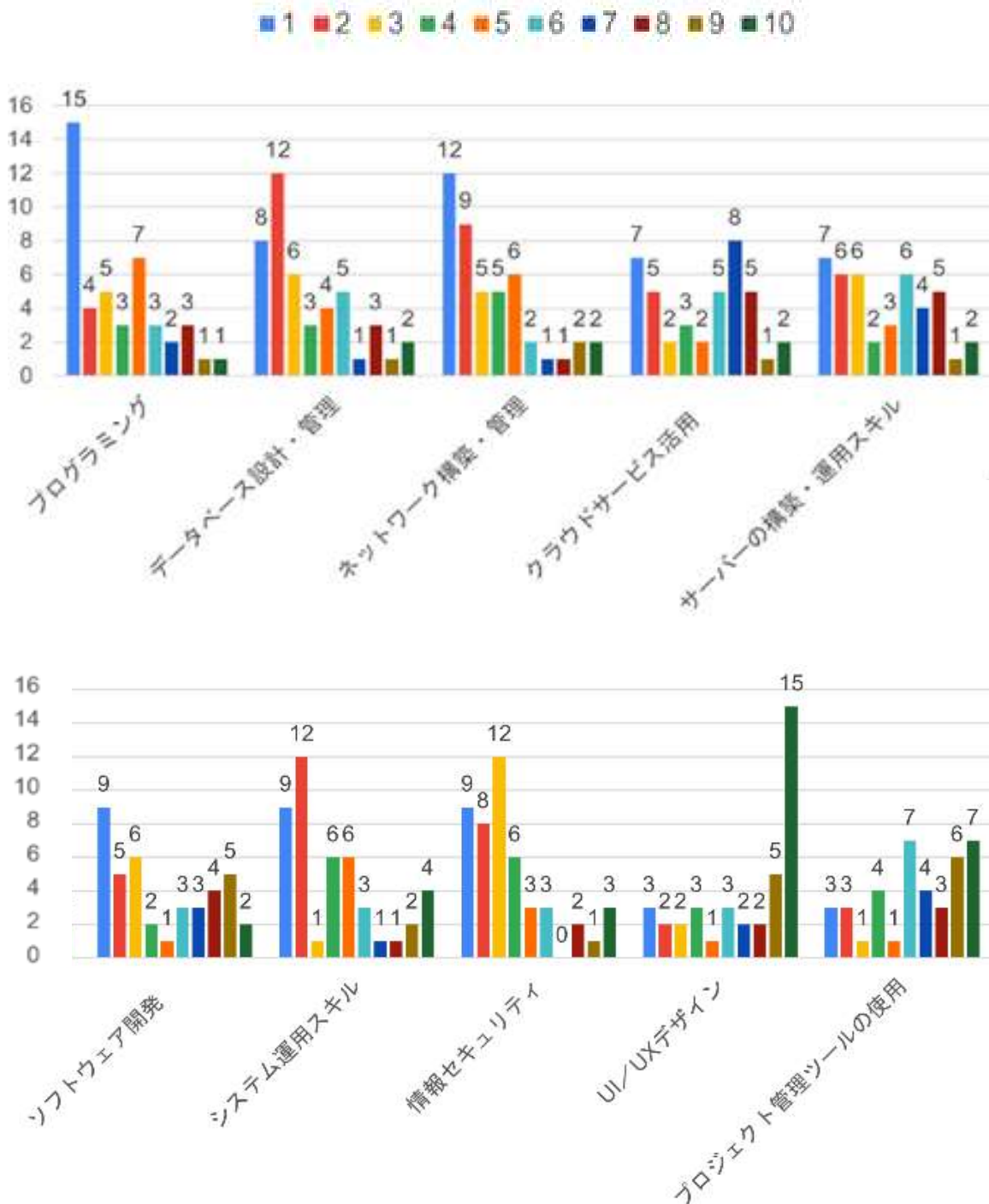
本調査の回答で多いものから順に、わからない 20 件(30.8%)、特に必要ない 18 件(27.7%)、ときどき必要である 17 件(26.2%)であった。必要性を感じる企業と感じない企業がほぼ同数となったが、全体の約三割の企業は AI の活用方法についてイメージがわいていない。



【問 4-1】 専門学校にて身につけてほしい IT スキル

	プログラミン グ	データ ベース 設計・ 管理	ネット ワーク 構築・ 管理	クラウ ドサー ビス活 用	サーバ ーの構 築・運 用スキ ル	ソフト ウェア 開発	システ ム運用 スキル	情報セ キュリ ティ	UI/ UX デ ザイン	プロジ ェクト 管理ツ ールの 使用
1	15	8	12	7	7	9	9	9	3	3
2	4	12	9	5	6	5	12	8	2	3
3	5	6	5	2	6	6	1	12	2	1
4	3	3	5	3	2	2	6	6	3	4
5	7	4	6	2	3	1	6	3	1	1
6	3	5	2	5	6	3	3	3	3	7
7	2	1	1	8	4	3	1	0	2	4
8	3	3	1	5	5	4	1	2	2	3
9	1	1	2	1	1	5	2	1	5	6
10	1	2	2	2	2	2	4	3	15	7

専門学校にて身につけてほしいITスキルについて、以下の項目のうち優先順位について数字を選択してください。



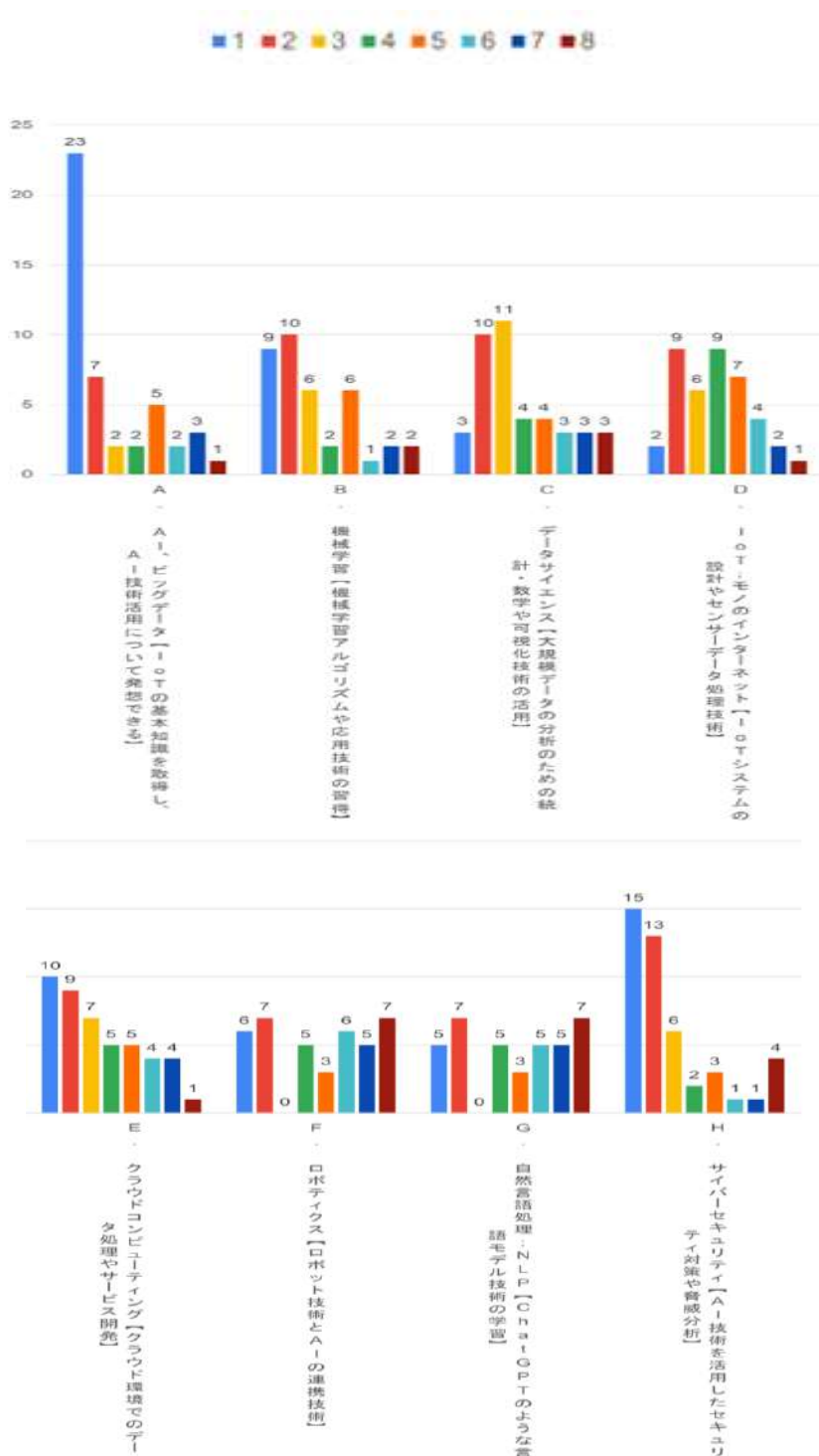
本調査で「1位」と回答した項目で一番多いのがプログラミング 15 件で、二番目に多いのがネットワーク構築・管理 12 件で、三番目に多いのがソフトウェア開発・システム運用スキル・情報セキュリティ 9 件であった。これらは「2 位」と回答した企業も多い傾向が見られることから、多くの企業で身につけてほしいと感じるスキルは重なっていることが分かる。

【問 4-2】 専門学校にて身につけておいて欲しい AI 関連スキル

	A. AI、ビッグデータ【IoT の基本知識を取得し、AI 技術活用について発想できる】	B. 機械学習【機械学習アルゴリズムや応用技術の習得】	C. データサイエンス【大規模データの分析のための統計・数学や可視化技術の活用】	D. IoT;モノのインターネット【IoT システムの設計やセンサーデータ処理技術】
1	23	9	3	2
2	7	10	10	9
3	2	6	11	6
4	2	2	4	9
5	5	6	4	7
6	2	1	3	4
7	3	2	3	2
8	1	2	3	1

	E. クラウドコンピューティング【クラウド環境でのデータ処理やサービス開発】	F. ロボティクス【ロボット技術と AI の連携技術】	G. 自然言語処理; NLP【ChatGPT のような言語モデル技術の学習】	H. サイバーセキュリティ【AI 技術を活用したセキュリティ対策や脅威分析】
1	10	6	5	15
2	9	7	7	13
3	7	0	0	6
4	5	5	5	2
5	5	3	3	3
6	4	6	5	1
7	4	5	5	1
8	1	7	7	4

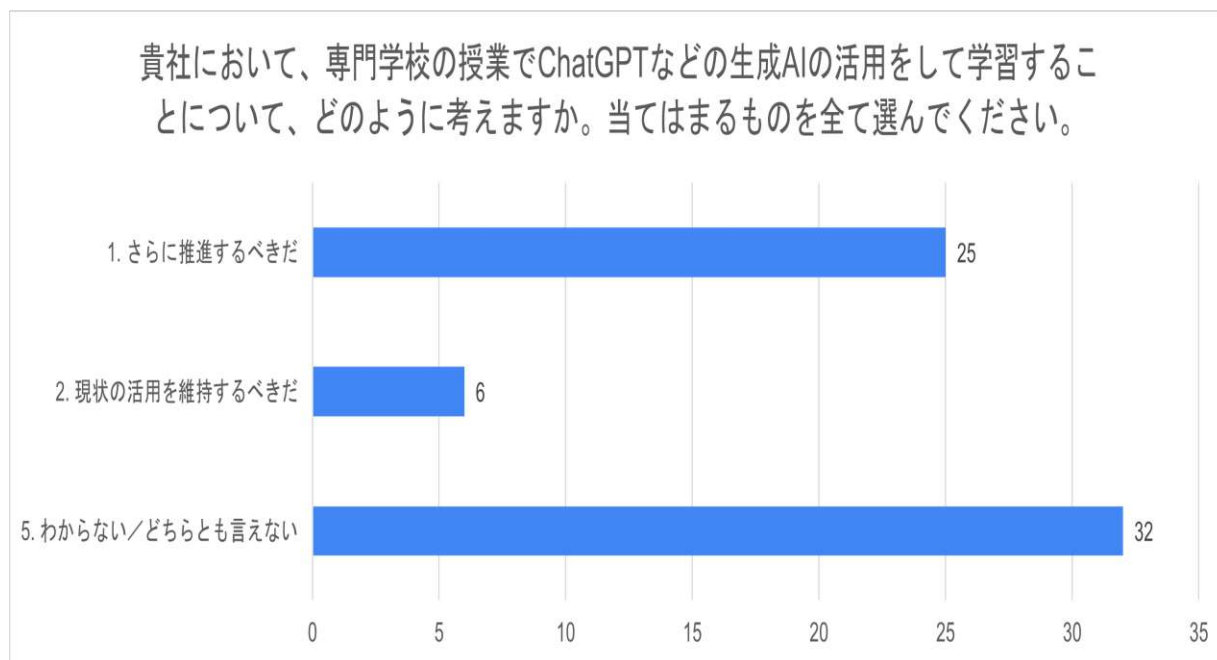
専門学校にて身につけておいて欲しいAI関連スキル（全項目に優先順位数字記入）について、以下の項目のうち優先順位について数を記入してください。



本調査で「1位」と回答した項目で一番多いのがAI、ビッグデータ【IoTの基本知識を取得し、AI技術活用について発想できる】23件で、二番目に多いのがサイバーセキュリティ【AI技術を活用したセキュリティ対策や脅威分析】15件で、三番目に多いのがクラウドコンピューティング【クラウド環境でのデータ処理やサービス開発】10件であった。一方でロボティクスや自然言語処理は優先順位が高いと感じる企業は少なかった。

【問4-3】 貴社において、専門学校での授業でChatGPTなどの生成AIの活用をして学習することについて、どのように考えますか。当てはまるものを全て選んでください。

1. さらに推進すべきだ	25
2. 現状の活用を維持すべきだ	6
5. わからない／どちらとも言えない	32



本調査の回答で多いものから順に、わからない／どちらとも言えない 32 件、さらに推進すべきだ 25 件、現状の活用を維持すべきだ 6 件であった。生成 AI による学習において活用を否定する項目には票が入らなかった。「さらに推進すべき」と回答した企業が多い中で、他設問同様に「わからない」と答える企業も多くある。

【問 4-4-1】 貴社において、下記人材のうちどちらが必要と考えますか。

1. AI ツールを使いこなして業務に活かす人材	38
2. AI のベースとなる IT システムを開発する人材	13
3. どちらの人材も必要ない	12

貴社において、下記人材のうちどちらが必要と考えますか。当てはまる人材の回答を選び、その理由について簡潔に教えてください。



本調査の回答で多いものから順に、AI ツールを使いこなして業務に活かす人材 38 件、AI のベースとなる IT システムを開発する人材 13 件、どちらの人材も必要ない 12 件であった。全体の 8 割以上の企業が AI に関する人材の必要性を感じている。特に業務に直結するイメージが強い「AI ツールを使いこなして業務に活かす人材」への回答が多かった。

【問 4-4-2】 上記を選んだ理由
開発までは外部の専門家にまかせ運用に専念した方がよい
システム開発の方が業務として重要
業務を効率的におこなってほしい。
弊社にてシステムの部署がありそのような業務を行っているから。
新規のシステムを開発してほしい
あくまでツールとして使いこなせることが大事
システム開発をする業務はほぼないので。
サポート人員として必要、開発は外部で行う
開発自体は行っていないので
ツールを使うより、何のために使うものか、どうやって使っていくか考える力の方を重視するためです
開発業務を重きを置くため

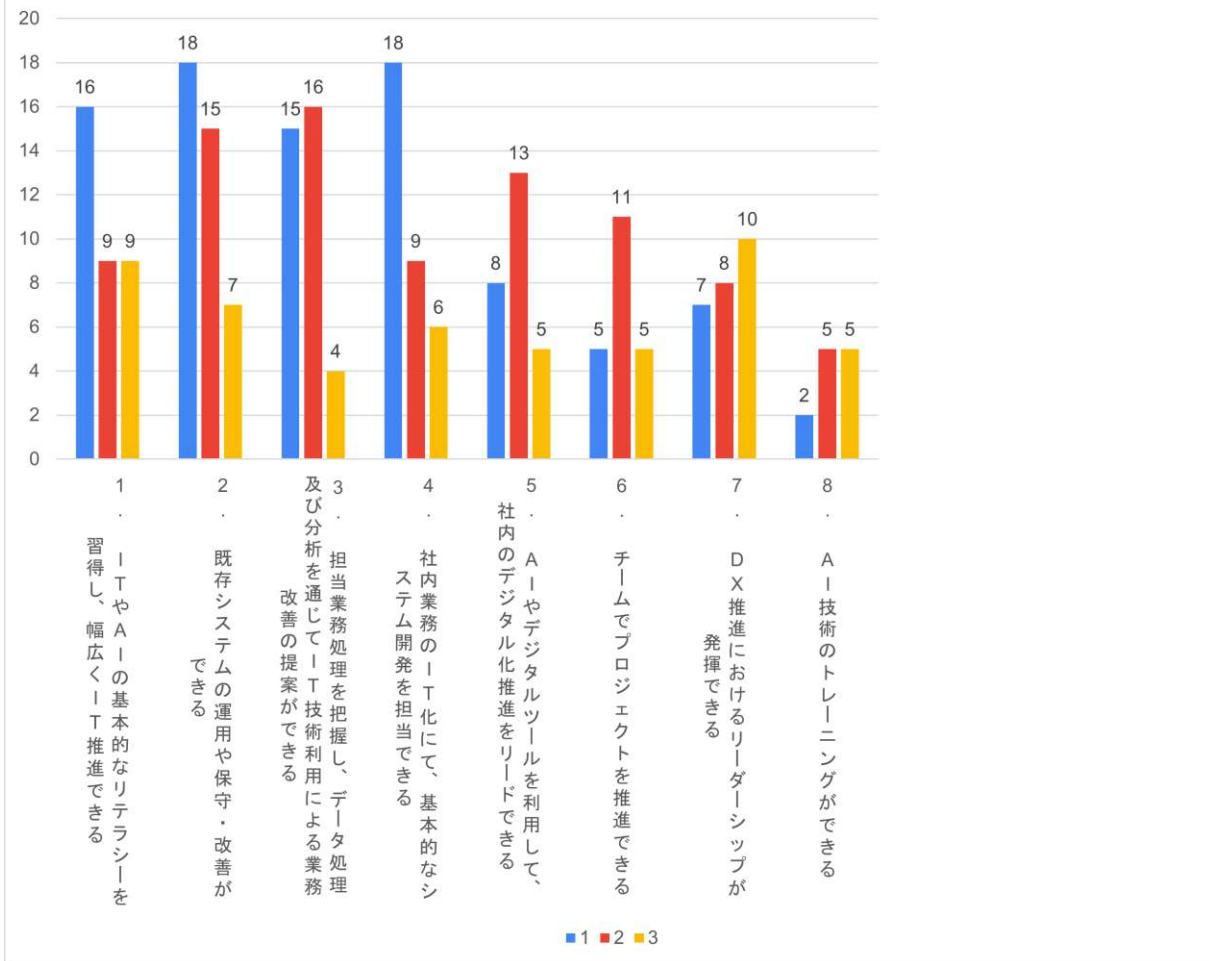
当社はソフトウェア会社のため
どちらかといえば
独自の色を出して工場内をシステム化させるため
社内にはいない
わからない
業務効率化
即戦力
業務の IT 化の一助になると思うので
トラブル等を学習し予測データベースを元に、安定した機械設計と製造技術向上をさせたい
実際はどちらも必要(内製が出来るのは大きな強み)だが、既存の仕組みを大いに活用して取り組めるのは早期戦力になる。
システムを組める人材がほしいため
現在社内にツールを使いこなす人材がいない
AIに頼りすぎるのもよくないと思われる
開発しても売れないとだめだから
開発に時間がかかりスピード感がない。外部ツールで早く対応できる方が良い。
あふれる AI ツールの中から自社に必要なものを見極める必要がある
ツールを活用し、業務効率を上げることと、それをできない人へ指導できる人財となって欲しい。
現状の社員では、AI ツールを使いこなせていない
生産を管理する上で、将来、必要性ができてそうなので
AI で業務がどの様にすれば自動化、IT 化になるかの知識が少ない為
新しいモノを作る力
システム開発までは求めないから
今後そういった業務が増えてくると思われるため
原理原則の理解力が重要
部署に応じて関わる範囲(業務)が違うため

【問 4-5】 貴社において、IT、AI 系を専攻する専門学校の学生(卒業生)に求める IT、AI を活用したビジネススキル

	1. IT や AI の基本的なリテラシーを習得し、幅広く IT 推進できる	2. 既存システムの運用や保守・改善ができる	3. 担当業務処理を把握し、データ処理及び分析を通じて IT 技術利用による業務改善の提案ができる	4. 社内業務の IT 化にて、基本的なシステム開発を担当できる	5. AI やデジタルツールを利用して、社内のデジタル化推進をリードできる	6. チームでプロジェクトを推進できる	7. DX 推進におけるリーダーシップが発揮できる	8. AI 技術のトレーニングができる
1	16	18	15	18	8	5	7	2
2	9	15	16	9	13	11	8	5
3	9	7	4	6	5	5	10	5



貴社において、IT、AIを専攻する専門学校（卒業生）に求めるIT、AIを活用したビジネススキルについて、以下の選択肢毎に1～3位の優先順位を選択してください。

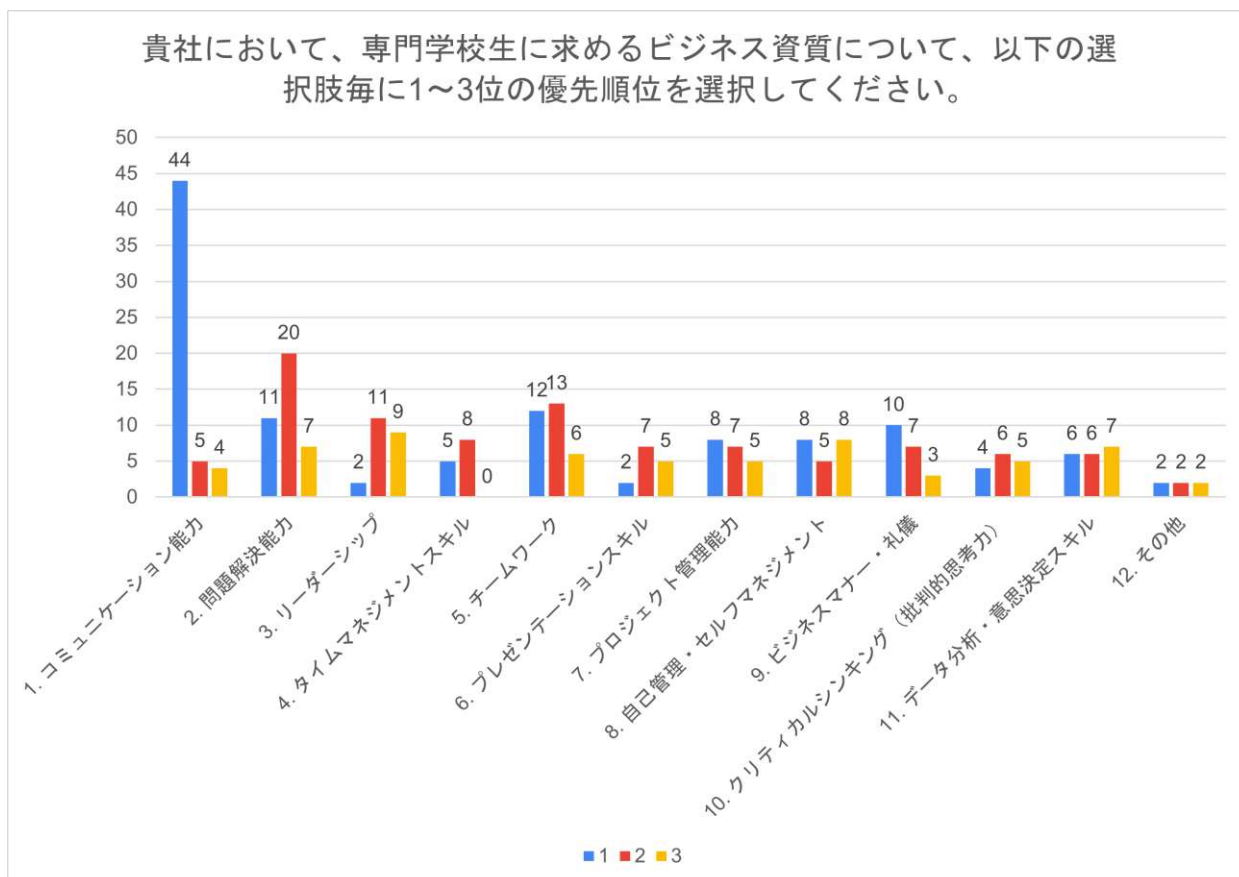


本調査で「1位」と回答した項目で一番多いのが、既存システムの運用や保守・改善ができる・社内業務のIT化にて、基本的なシステム開発を担当できる18件で、二番目に多いのがITやAIの基本的なリテラシーを習得し、幅広くIT推進できる16件で、三番目に多いのが担当業務処理を把握し、データ処理及び分析を通じてIT技術利用による業務改善の提案ができる15件であった。他項目と比べても約二倍の票数があることから、リーダー的な役割よりも基礎的なIT関連の役割を担える人材を希望していることが分かる。

【問 4-6-1】 貴社において、専門学校生に求めるビジネス資質

	1. コミュニケーション能力	2. 問題解決能力	3. リーダーシップ	4. タイムマネジメントスキル	5. チームワーク	6. プレゼンテーションスキル
1	44	11	2	5	12	2
2	5	20	11	8	13	7
3	4	7	9	0	6	5

	7. プロジェクト管理能力	8. 自己管理・セルフマネジメント	9. ビジスマナー・礼儀	10. クリティカルシンキング(批判的思考力)	11. データ分析・意思決定スキル	12. その他
1	8	8	10	4	6	2
2	7	5	7	6	6	2
3	5	8	3	5	7	2



本調査で「1位」と回答した項目で一番多いのが、コミュニケーション能力 44 件で、二番目に多いのがチームワーク 12 件で、三番目に多いのが問題解決能力 11 件であった。「2 位」以下の項目と比べてもコミュニケーション能力が最も優先と感じる企業が多い。

【問 4-6-2】 その他の理由

どの業種でも活かせる、社会人には必要なスキルであり、鍛えるにも難しいものがある為。  
学生時代から身につけているのであれば大いに役立つと考える。

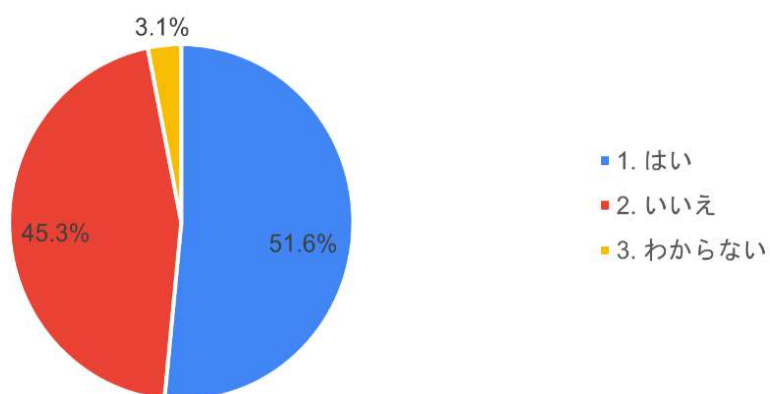
傾聴力

報告や相談をまめにする

【問 4-7-1】 貴社において、学生インターンシップを実施していますか

1. はい	33
2. いいえ	29
3. わからない	2

貴社において、学生インターンシップの実施状況について教えてください、当てはまるものを1つ選んでください。

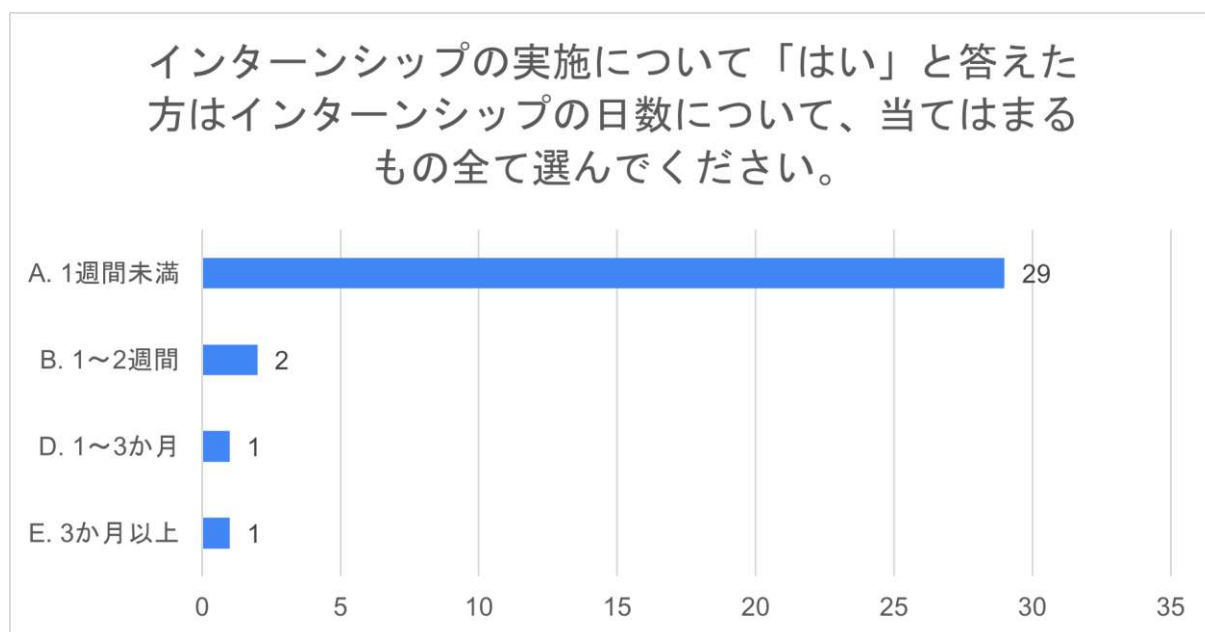


本調査の回答で多いものから順に、はい 33 件(51.6%)、いいえ 29 件(45.3%)、わからない 2 件(3.1%)であった。全体の半数の企業がインターンシップを実施している。

【問 4-7-2】

インターンシップ実施している場合の日数について、当てはまるものを全て選んでください。

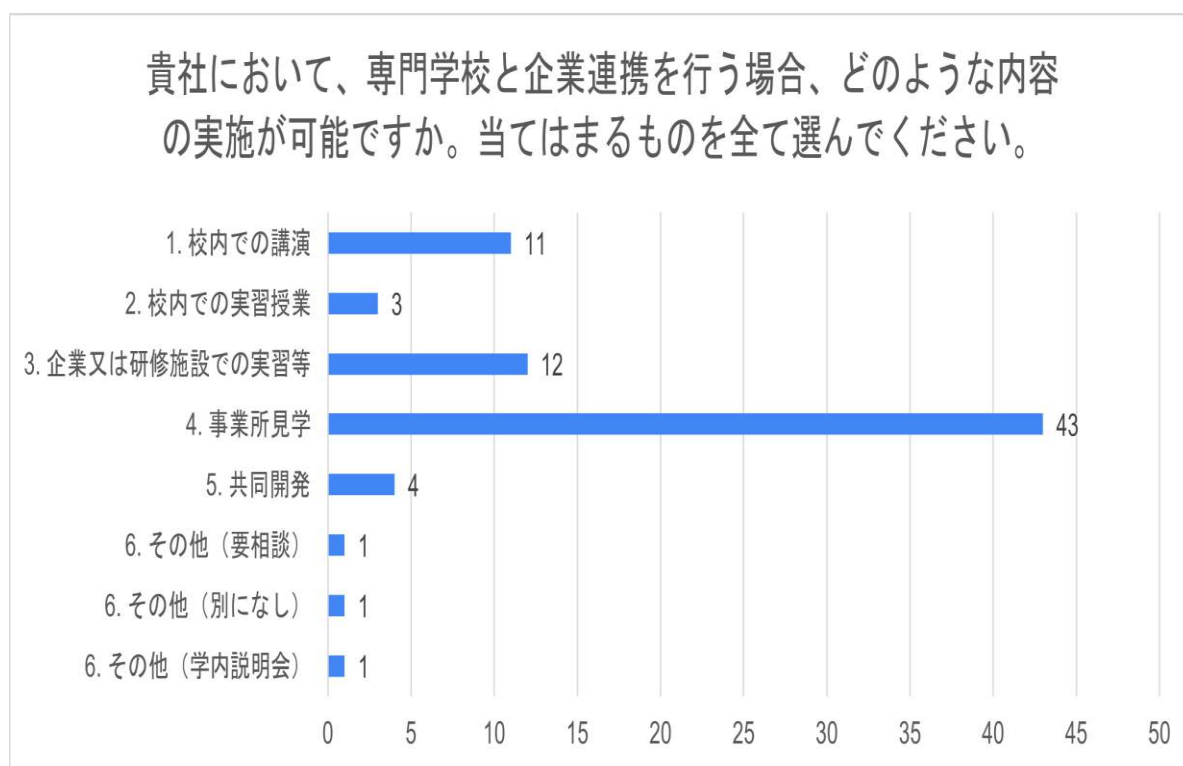
A. 1週間未満	29
B. 1～2週間	2
D. 1～3か月	1
E. 3か月以上	1



本調査の回答で多いものから順に、1週間未満 29 件、1～2週間 2 件、1～3か月・3か月以上 1 件であった。ほとんどの企業が一週間以内の実施をしている。

【問4-8】 貴社において専門学校と企業連携を行う場合、どのような内容の実施が可能ですか。

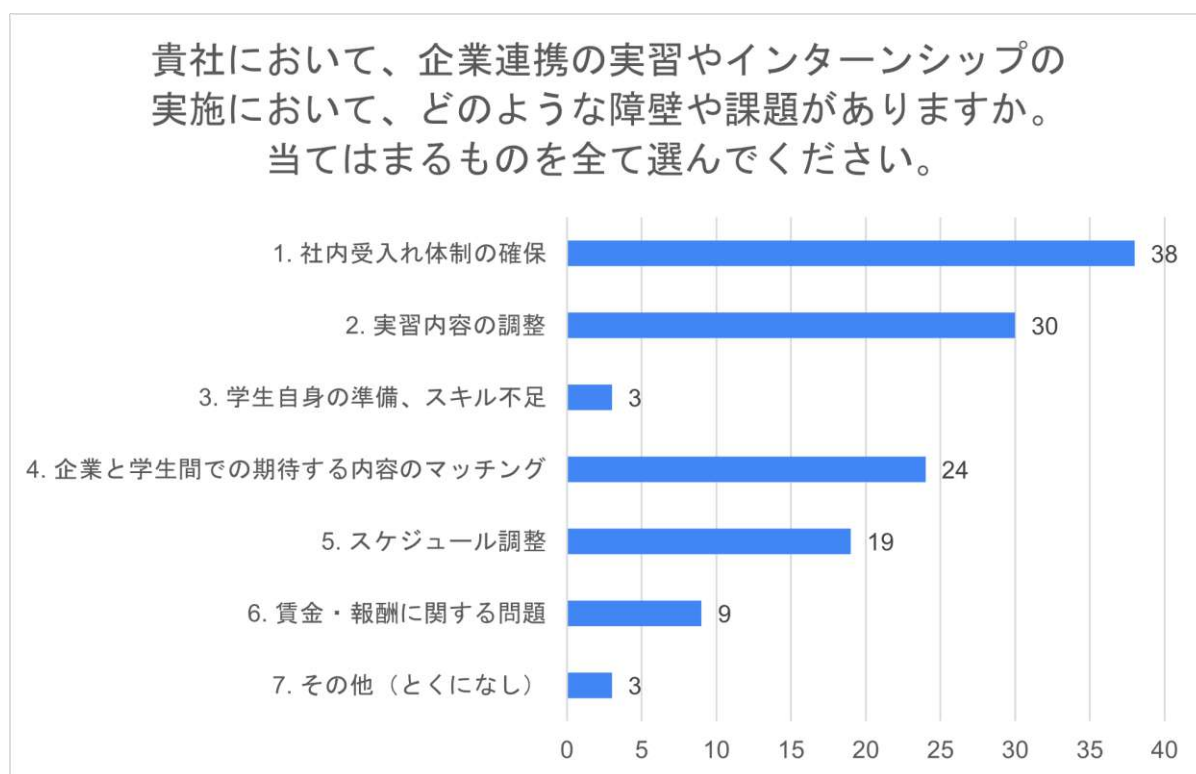
1. 校内での講演	11
2. 校内での実習授業	3
3. 企業又は研修施設での実習等	12
4. 事業所見学	43
5. 共同開発	4
6. その他(要相談)	1
6. その他(別になし)	1
6. その他(学内説明会)	1



本調査の回答で多いものから順に、事業所見学 43 件、企業又は研修施設での実習等 12 件、校内での講演 11 件であった。多くの企業では事業所見学の実施が可能であるが、それ以外の連携については実施が難しいと考える企業の方が多い。

【問 4-9】 貴社において、企業連携の実習やインターンシップの実施において、どのような障壁や課題がありますか。

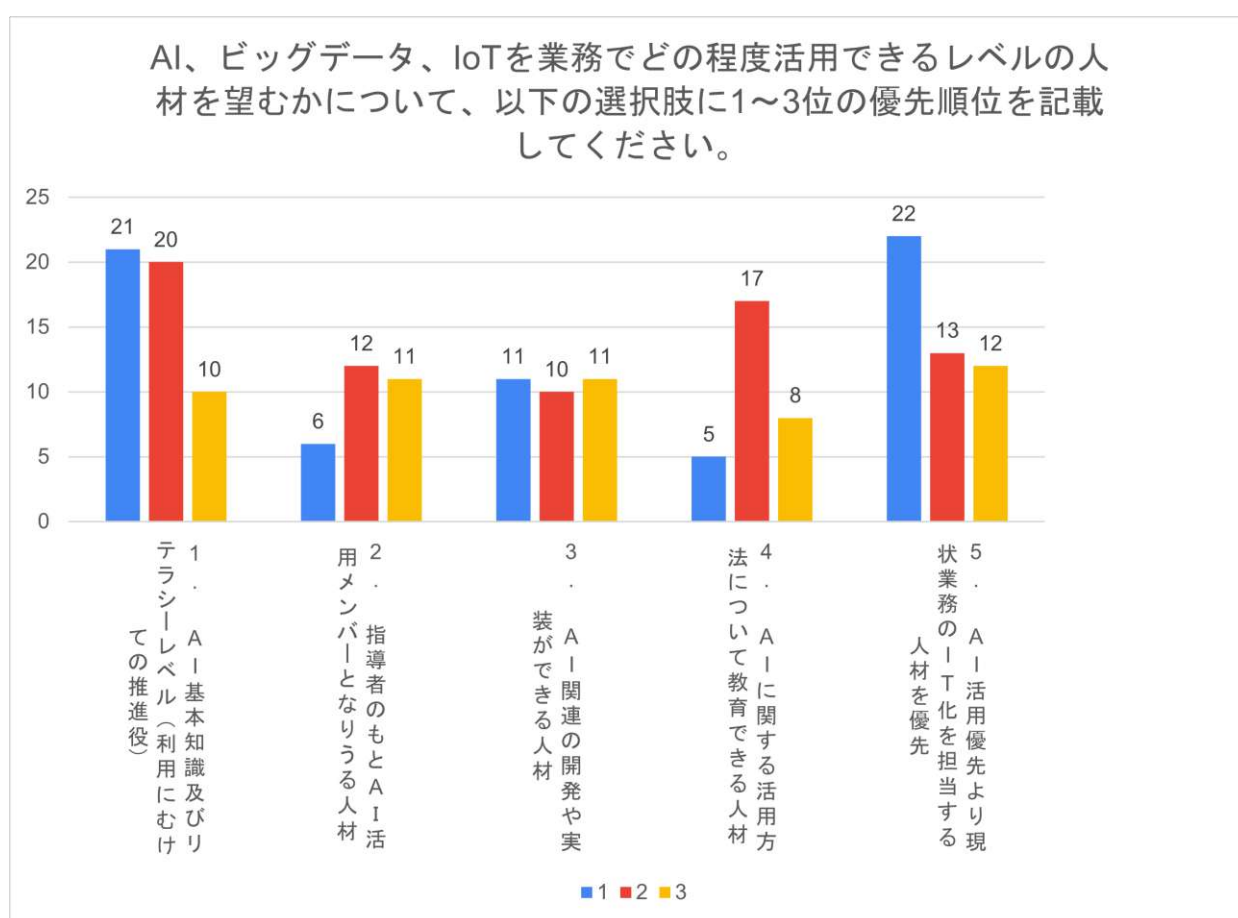
1. 社内受入れ体制の確保	38
2. 実習内容の調整	30
3. 学生自身の準備、スキル不足	3
4. 企業と学生間での期待する内容のマッチング	24
5. スケジュール調整	19
6. 賃金・報酬に関する問題	9
7. その他(とくになし)	3



本調査の回答で多いものから順に、社内受入れ体制の確保 38 件、実習内容の調整 30 件、企業と学生間での期待する内容のマッチング 24 件であった。実習生を迎え入れる準備について障壁を感じている企業が多い。

【問 5-1】 AI、ビッグデータ、IoT を業務でどの程度活用できるレベルの人材を望みますか。

	1. AI 基本知識及びリテラシーレベル(利用にむけての推進役)	2. 指導者のもと AI活用メンバーとなりうる人材	3. AI 関連の開発や実装ができる人材	4. AI に関する活用方法について教育できる人材	5. AI 活用優先より現状業務の IT 化を担当する人材を優先
1	21	6	11	5	22
2	20	12	10	17	13
3	10	11	11	8	12



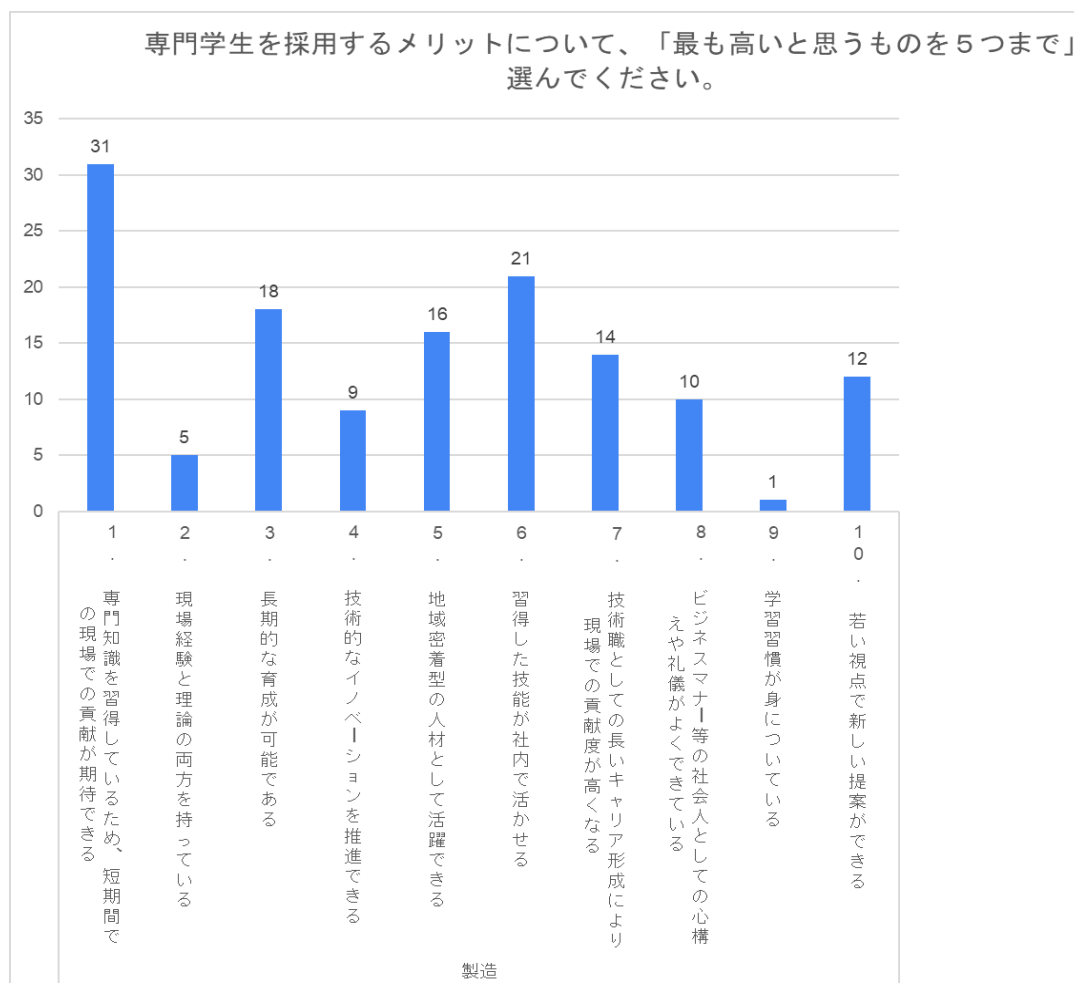
本調査で「1位」と回答した項目で一番多いのが、AI 活用優先より現状業務の IT 化を担当する人材を優先 22 件で、二番目に多いのが AI 基本知識及びリテラシーレベル(利用にむけての推進役) 21 件で、三番目に多いのが AI 関連の開発や実装ができる人材 11 件であった。AI を用いて新たな業務改革を望む企業は少なく、AI 利用のベースを構築する人材を求める傾向が強い。



【問6-1】 これまでの質問内容以外で、企業のIT、AIの活用できる人材確保等について意見があれば記入してください。

- ・AIが何に使用できるかわからない
- ・特になし。
- ・特になし(法律には文句がある)

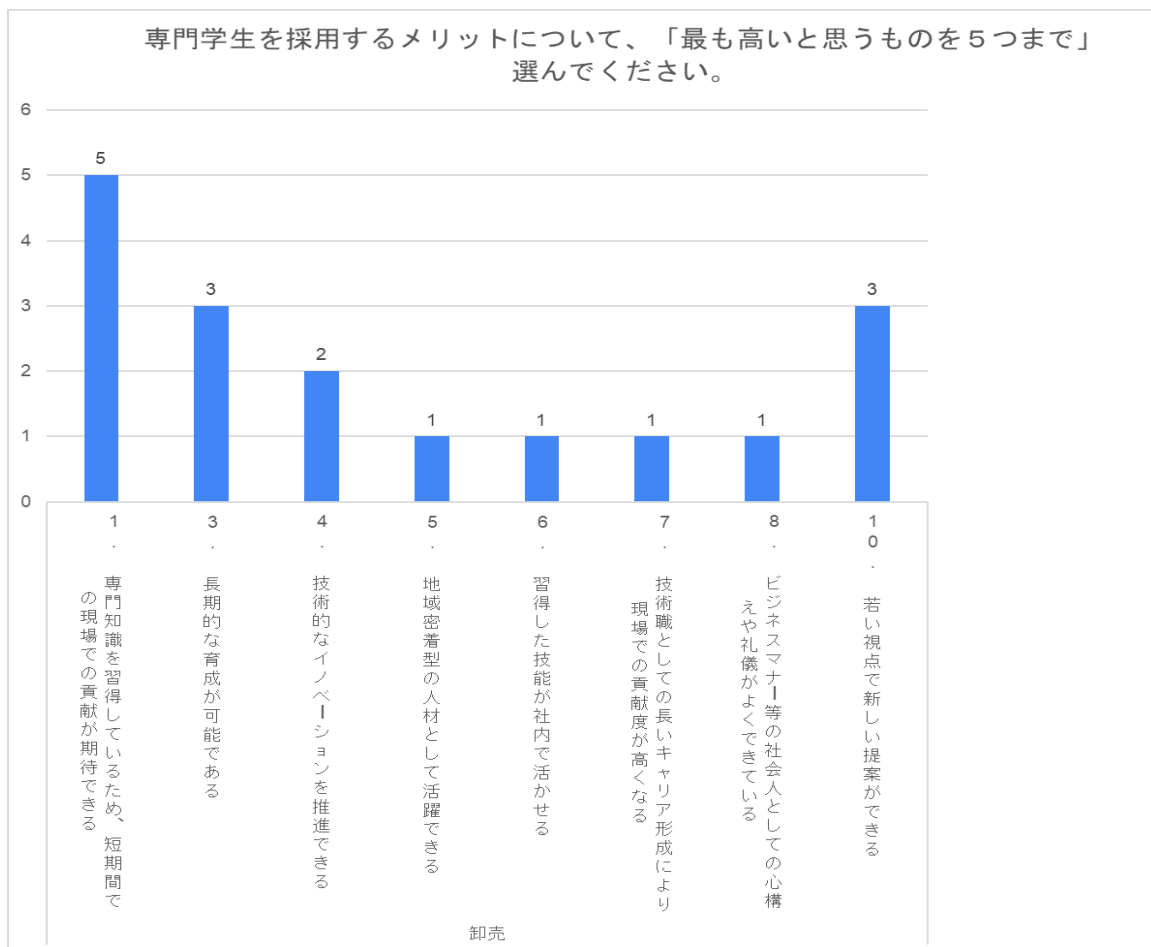
## 【クロス集計①】 事業分野×求める人材資質・技能の最重要視項目



製造業では、専門学生を採用する際に最も評価される項目は「専門知識を習得しているため、短期間での現場での貢献が期待できる」(31票)であり、これは全体で最も高い評価を得ている項目である。次いで「習得した技能が社内で活かせる」(21票)、「長期的な育成が可能である」(18票)、「地域密着型の人材として活躍できる」(16票)、「技術職としての長いキャリア形成により現場での貢献度が高くなる」(14票)も重要視されている。

一方で「学習習慣が身についている」(1票)は最も低評価であり、即戦力としての技術・専門知識の価値が特に重視される傾向がうかがえる。また、「若い視点で新しい提案ができる」(12票)や「ビジネスマナー等の社会人としての心構えがよくできている」(10票)も一定の評価を受けていることから、製造業における期待の幅広さも示されている。

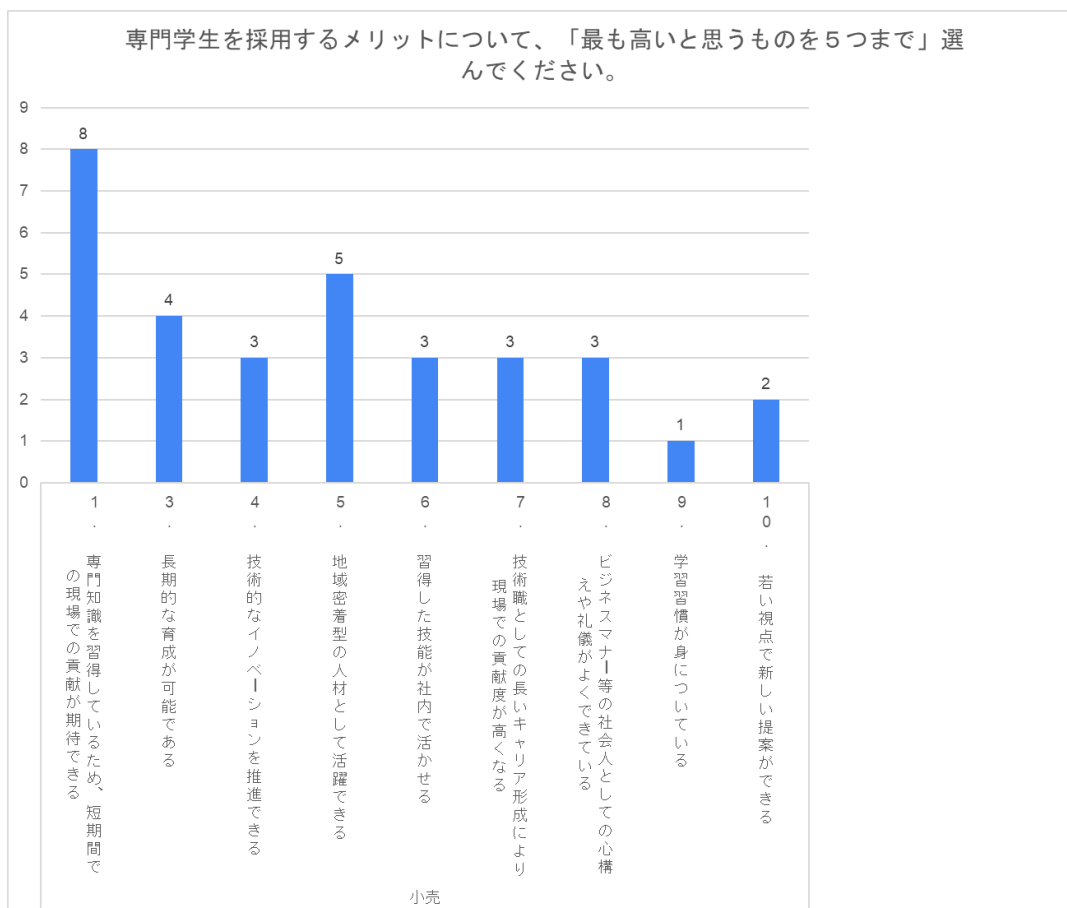
この傾向から、製造業では即戦力性と専門性を求める一方で、長期的な成長や地域密着型の活躍にも一定の関心があると考えられる。



卸売業における専門学生採用のメリットとして最も評価されているのは「専門知識を習得しているため、短期間での現場での貢献が期待できる」(5票)という点であった。次いで、「長期的な育成が可能である」(3票)と「若い視点で新しい提案ができる」(3票)が挙げられている。

一方で、「技術的なイノベーションを推進できる」(2票)や、その他の項目(1票ずつ)は比較的低評価となっており、卸売業では即戦力としての知識や短期間での業務適応力が最も重視される傾向が見られる。

また、「若い視点での提案力」も評価されていることから、現場貢献と合わせて新しいアイデアや革新にも期待があることが分かります。このことから、卸売業は柔軟性と即戦力のバランスを重視していると考えられる。



小売業における専門学生の採用メリットとして最も評価されているのは「専門知識を習得しているため、短期間での現場での貢献が期待できる」(8 票)という点であった。次に「地域密着型の人材として活躍できる」(5 票)や「長期的な育成が可能である」(4 票)が続いている。

また、「技術的なイノベーションを推進できる」「習得した技能が社内で活かせる」「技術職としてのキャリア形成による貢献度が高くなる」(各 3 票)も一定の評価を得ている。一方で「学習習慣が身についている」(1 票)や「若い視点で新しい提案ができる」(2 票)は評価が低めであった。

この傾向から、小売業では即戦力としての専門知識や地域密着型の人材活用が重視されると考えられる。同時に、長期的な育成や現場でのスキル適用も期待されており、組織に根付いた活躍が期待されることが読み取れる。

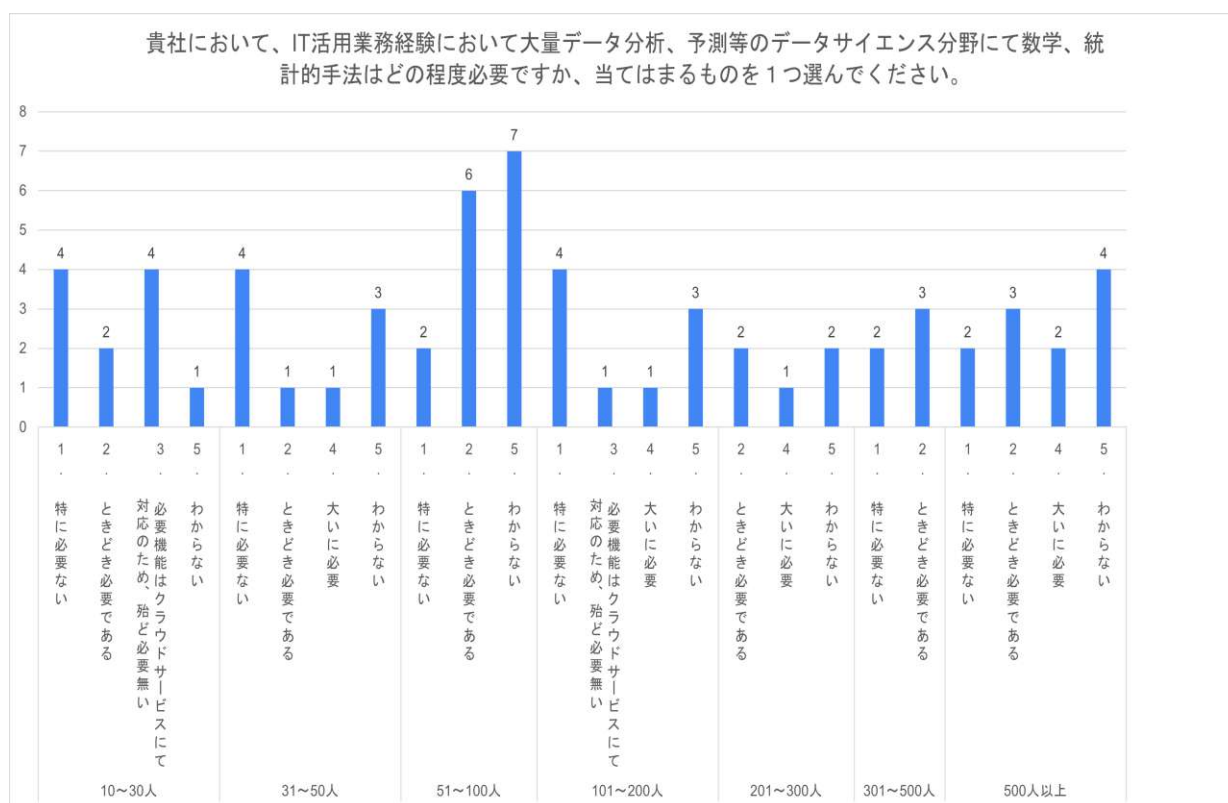
## 【クロス集計①:考察】

事業分野の回答で多かった上位三項目(製造、卸売、小売)と「専門学生を採用するメリットについて最も高いと思うものを選んでください」をクロス集計した。いずれの業種においても専門学校生には**専門知識を有して即戦力となることを期待している**。特に製造業では**習得した技術の発揮**にも注目しており、現場業務での**貢献度**が高く評価されている。

一方、卸売業では**即戦力だけでなく\*\*「若い視点での新しい提案力」が評価されており、柔軟な発想や革新性への期待が見られる**。小売業では**地域密着型の人材としての活躍\*\*が重視され、地元での貢献や長期的な育成が求められている**。

これらの結果から、業種ごとに求める人材像に若干の違いはあるものの、共通して**専門学生の即戦力としての知識や技能が最も重要視されていることが分かる**。また、製造業や小売業では**長期的視点での成長や地域社会への適応力**、卸売業では**新しい発想力**など、専門学校生の**多面的な能力への期待も確認できる**。

## 【クロス集計②】 企業規模×DX 人材育成ニーズレベル



### 【クロス集計②:考察】

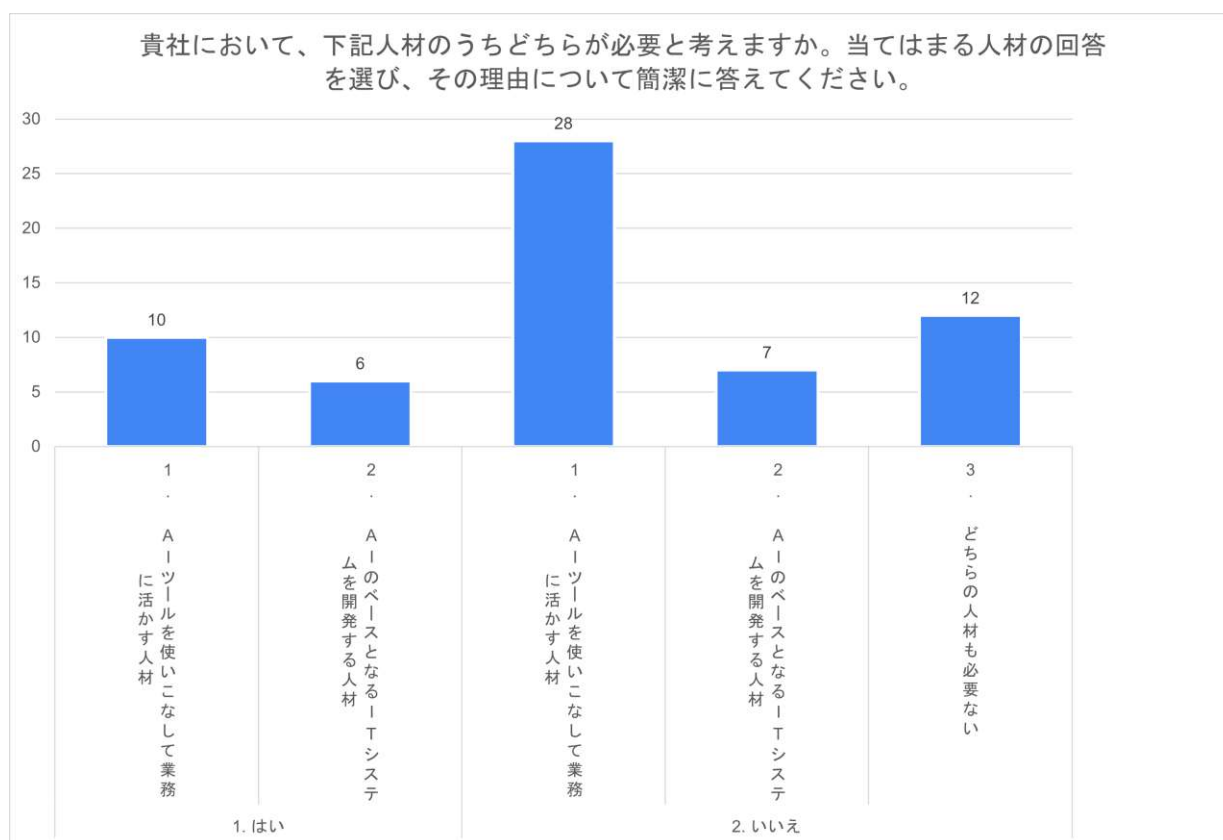
企業規模×DX 人材育成ニーズレベルを調べるために、「貴社の従業員規模」と「IT 活用業務経験において大量データ分析、予測等のデータサイエンス分野にて数学、統計的手法はどの程度必要ですか」をクロス集計した。結果を分析すると、事業規模が大きくなるほど「特に必要な」と回答する割合が減少し、「必要性を感じる」または「場合によって必要である」と回答する企業が増えていることが確認できる。

従業員規模が「51~100 人」の企業では「ときどき必要である」が「わからない」に続いて多く(6件)、DX やデータサイエンス活用に対する意識が比較的高い傾向が見られる。一方で、規模が小さい「10~30 人」や「31~50 人」の企業では「特に必要な」との回答が目立ち、データサイエンス活用への取り組みや必要性を感じていない企業が一定数存在している。

従業員規模が「101~200 人」以上の中規模から大規模な企業にかけては、「必要性を感じる」「場合によって必要」との回答が目立つようになり、業務効率化やデータ分析を取り入れる意識が高まっていることが分かる。「500 人以上」の大規模企業においては「わからない」との回答も多く、ニーズが多様化している可能性が考えられる。

この結果から、企業規模が大きいほど業務の複雑化に伴い、DX 人材の必要性やデータサイエンス分野への期待が高まる傾向が見られる。一方で、小規模企業ではまだ取り組みが進んでおらず、認識やリソースの不足が課題として残ることが示唆される。

### 【クロス集計③】 理系・DX 人材の必要性認識×理系・DX 人材の採用・増員意欲



理系・DX 人材の必要性認識×理系・DX 人材の採用・増員意欲を調べるために、「IT 関連技術の分野に特化した人材の採用を行っていますか」と「貴社において、下記人材のうちどちらが必要と考えますか」をクロス集計した。結果を分析すると、事業規模が大きくなるほど「特に必要ない」と回答する割合が減少し、「必要性を感じる」または「場合によって必要である」と回答する企業が増えていることが確認できる。

従業員規模が「51～100 人」の企業では「ときどき必要である」についての件数が多く(6件)、DX やデータサイエンス活用に対する意識が比較的高い傾向が見られる。一方で、規模が小さい「10～30 人」や「31～50 人」の企業では「特に必要ない」との回答が目立ち、データサイエンス活用への取り組みや必要性を感じていない企業が一定数存在している。

従業員規模が「101～200 人」以上の中規模から大規模な企業にかけては、「大いに必要性を感じる」「場合によって必要」との回答が目立つようになり、業務効率化やデータ分析を取り入れる意識が高まっていることが分かる。「500 人以上」の大規模企業においては「わからない」との回答も多く、ニーズが多様化している可能性が考えられる。

この結果から、企業規模が大きいほど業務の複雑化に伴い、DX 人材の必要性やデータサイエンス分野への期待が高まる傾向が見られる。一方で、小規模企業ではまだ取り組みが進んでおらず、認識やリソースの不足が課題として残ることが示唆される。

## 4. 講評

---

### 企業における先端 IT 人材育成学科新設プログラム開発事業に関する調査分析

#### ●調査概要

本調査は、文部科学省委託事業「先端 IT 人材育成学科新設プログラム開発事業」の一環として、企業における IT 人材育成に関する実態とニーズを把握することを目的とした。対象は、主に広島県内の製造業を中心とした企業であり、アンケート調査を実施した。

#### ●調査結果の概要

##### 【企業属性】

- ・業種: 製造業が大半を占め、次に小売業、卸売業が続いた。
- ・従業員規模: 50 人～200 人規模の企業が最も多かった。
- ・IT 部署: IT 部署を持たない企業や、少人数の部署で対応している企業が多数を占めた。
- ・IT 活用状況: 生産管理、在庫管理、仕入・売上管理など、基幹業務への IT 活用が進んでおり、AI やビッグデータの活用は一部の企業に限られていた。

##### 【企業の現状と課題】

- ・IT 人材不足: 半数以上の企業が IT 人材の不足を訴え、特に AI 関連の専門知識を持つ人材の不足が深刻である。
- ・IT システムの外部委託: IT システムの多くを外部に委託しており、自社内での開発・運用体制が整っていない企業が多い。
- ・AI 導入の遅れ: AI の導入は進んでおらず、導入している企業であっても、その活用範囲は限定的である。

##### 【IT 人材に対するニーズ】

- ・即戦力: 専門知識を習得し、短期間で現場に貢献できる人材が求められている。
- ・IT リテラシー: IT や AI の基本的な知識を持ち、幅広く IT 推進できる人材が求められている。
- ・ビジネススキル: コミュニケーション能力、問題解決能力、チームワークなど、ビジネス全般で求められるスキルに加え、データ分析能力やプロジェクト管理能力も重要視されている。
- ・AI 活用: AI ツールを使いこなせる人材や、AI の基礎的な知識を持つ人材へのニーズが高まっている。

##### 【専門学校への期待】

- ・実践的なスキル: プログラミング、データベース設計・管理、ネットワーク構築・管理などの実践的なスキル習得を期待している。
- ・AI に関する知識: AI、ビッグデータ、IoT などの基礎知識と、それらを活用できる能力の育成を期待している。



- ・ビジネススキル: コミュニケーション能力、問題解決能力、プロジェクト管理能力など、ビジネスで求められるスキルの習得を期待している。
- ・企業との連携: インターンシップや共同開発など、企業との連携を通じて実践的な経験を積める機会を求めている。

#### 【専門学校への提言】

- ・本調査の結果から、専門学校には以下のことが求められる。
- ・実践的な教育: 企業が求める即戦力育成のため、実務に即したカリキュラムの開発が求められる。
- ・AI・データサイエンス教育の強化: AI やデータサイエンス分野の教育を強化し、企業のニーズに対応できる人材を育成する必要がある。
- ・産学連携の強化: 企業との連携を深め、インターンシップや共同研究などを通じて、学生の実務能力を高めることが重要である。
- ・コミュニケーション能力の育成: プレゼンテーション能力やチームワーク能力など、社会人として必要なコミュニケーション能力の育成に力を入れる必要がある。

#### 【分析結果からの考察】

- ・IT 人材不足: IT 人材の不足が深刻であり、特に AI やデータサイエンス分野での人材不足が顕著である。
- ・即戦力へのニーズ: 企業は、即戦力となる人材を求めているが、一方で、AI やデジタル化に対応できる人材育成にも関心を持っている。
- ・専門学校の役割: 専門学校は、企業のニーズに合致した実践的なスキルを習得させるとともに、ビジネススキルやコミュニケーション能力を育成する必要がある。また、企業との連携を強化し、学生が実践的な経験を積める機会を提供することが重要である。
- ・AI 活用への期待: AI の活用は、まだ一部の企業にとどまっているが、今後、AI を活用できる人材の需要はますます高まっていくことが予想される。

#### 【今後の課題と展望】

- ・本調査の結果から、以下の課題と展望が考えられる。
- ・地域産業への貢献: 地域産業のデジタル化を推進するため、地域企業のニーズに合わせた人材育成プログラムの開発が求められる。
- ・企業との連携強化: 企業との連携を強化し、インターンシップや共同研究などを通じて、学生が実践的な経験を積める機会を提供する必要がある。
- ・AI 人材育成の強化: AI に関する知識やスキルを習得できる教育プログラムの拡充が急務である。
- ・リカレント教育の推進: 社会人向けのリカレント教育プログラムの拡充により、既存の従業員のスキルアップを支援する必要がある。
- ・本調査の結果を踏まえ、企業と連携し、地域社会の発展に貢献できるような人材育成プログラムの開発を進めていく必要がある。

## 【まとめ】

- ・本調査の結果、地域の企業は、IT 人材の不足、特に AI 関連の専門知識を持つ人材の不足に悩んでいることが明らかとなった。企業は、専門学校に対して、実践的な IT スキルとコミュニケーション能力を備えた人材の育成を期待している。
- ・一方で専門学校は、AI やデータサイエンスなど、最新の技術に対応した教育カリキュラムの開発が求められている。AI を指導できる人材育成が成功のカギとなる。また、企業との連携を強化し、インターンシップや共同研究を通じて、学生の実務能力を高めることが重要である。
- ・地域全体として、企業と専門学校が連携し、IT 人材育成を推進していくことで、地域経済の活性化に貢献できる。

## 5. アンケート調査票

### 企業対象

2024年度 文部科学省委託事業 IT及びAI活用のための人材育成についてのアンケートです。

### 「先端 IT 人材育成学科新設プログラム開発事業」アンケート調査

- 調査基準日：2024年11月1日
- 提出期限：2024年11月25日
- 諸注意：この調査票に記入された事項は、学校法人穴吹学園穴吹ビジネス専門学校の個人情報保護規程に従い厳重に管理し、当調査の目的以外には使用いたしません。
- アンケート回答時間目安 15分

〈記入にあたってのお願い〉

- ◆本調査票へのご回答は、封筒宛名に記載された企業の担当者様において記入してください。
- ◆選択肢が用意されている場合はあてはまるものに○を、記入欄が用意されている場合は所定の位置に記入してください。
- ◆本アンケートの回答は、以下のいずれかの方法でご提出いただけます。
  - ①このアンケート用紙に直接ご記入の上、返信用封筒にてご返送ください。
  - ②オンラインでの回答をご希望の場合は、右のQRコードからアクセスし、必要事項をご入力ください（アンケート用紙の返送は不要です）。
 ※①と②の回答方法が重複することのないようご協力ください。



#### 1. 企業の基本情報

企業様回答 QR コード

問1-1 貴社の概要について下記に記入してください。

1. 貴社の本社所在地	( ) 都・道・府・県 / ( ) 市・町・村
2. 貴社の業種	1. 建設 2. 製造 3. 情報通信 4. 運輸 5. 卸売 6. 小売 7. サービス 8. その他 ( )
3. 貴社の従業員規模 (非正規含む)	1. 10人未満 2. 10~30人 3. 31~50人 4. 51~100人 5. 101~200人 6. 201~300人 7. 301~500人 8. 上記以上 ( ) 人規模
4. 貴社が取り扱う製品やサービスのカテゴリー (複数回答可)	1. 食品・家庭用品 2. 繊維・衣料 3. 紙・パルプ 4. 印刷 5. 鉄鋼 6. 化学加工品 7. 金属加工品 8. 機械 9. 電子機器 10. 自動車関連品 11. 建物・住宅 12. ソフトウェア 13. 観光・レジャー 14. その他 ( )
5. 回答者の役職や部署の種類	A. 役職 1. 経営者・役員 2. 部長 3. 課長 4. 係長 5. 一般社員 6. その他 ( ) B. 部署 1. 経営 2. 営業 3. 販売 4. 企画 5. 経理 6. 総務・人事 7. 製造 8. IT 9. その他 ( )

2. 貴社の採用の状況及び意向

問2-1 貴社の専門学校生の採用実績について、当てはまるものを1つ選んでください。

1. なし
2. 過去5年以内に採用なし
3. 4～5年以内に採用あり
4. 2～3年以内に採用あり
5. ほぼ毎年採用している

問2-2 専門学生を採用するメリットについて、「最も高いと思うものを5つまで」選んでください。

1. 専門知識を習得しているため、短期間での現場での貢献が期待できる
2. 現場経験と理論の両方を持っている
3. 長期的な育成が可能である
4. 技術的なイノベーションを推進できる
5. 地域密着型の人材として活躍できる
6. 習得した技能が社内で活かせる
7. 技術職としての長いキャリア形成により現場での貢献度が高くなる
8. ビジスマナー等の社会人としての心構えや礼儀がよくできている
9. 学習習慣が身についている
10. 若い視点で新しい提案ができる
11. その他 ( )

問2-3 IT関連技術の分野（プログラマーやシステムエンジニア等）に特化した人材の採用を行っていますか。当てはまるものを1つ選んでください。

1. はい
2. いいえ
3. わからない

3. 貴社のIT、情報システム部署の状況

問3-1 貴社の現在のIT、情報システム部署の人数について、当てはまるものを1つ選んでください。

1. 0人（IT部署がない）
2. 1～5人
3. 6～10人
4. 11～20人
5. 21～50人
6. 51人以上
7. 上記以上（ 人規模 ）

問3-2 貴社のIT導入、開発・運用についての体制について、当てはまるものを1つ選んでください。

1. 外部委託
2. 自社情報システム部門等
3. 外部委託及び社内部署単位
4. 特に決まった部署はない（分かる人が対応）
5. その他 ( )

問3-3 貴社のITシステムの業務利用状況について、当てはまるものを全て選んでください。

1. 生産管理
2. 在庫管理
3. 仕入・売上管理
4. 会計
5. 人事・総務
6. 顧客管理
7. 販売マーケティング
8. 物流・配送管理
9. その他 ( )

問3-4 貴社のAI、ビッグデータ、IoT等の技術導入事例の有無について、当てはまるものを1つ選んでください。

1. はい 2. いいえ 3. わからない

※上記「1. はい」と答えた方はどの分野で導入しているか、当てはまるもの全て選んでください。

- A. 生産管理 B. 在庫管理 C. 予知保守 D. 生産工程の自動化  
E. 画像自動認識処理 F. 顧客データの分析・活用 G. マーケティングの効率化  
H. 物流・配送管理 I. 会話系自動応答サービス J. リスク管理・セキュリティ対策  
K. 研究・開発支援  
L. その他 ( )

問3-5 貴社において、ChatGPTなどの生成AIの活用について、以下の業務で利用していますか。当てはまるものを全て選んでください。

1. 報告書作成 2. 社外ビジネス文書 3. 社内資料 4. マニュアル作成  
5. 企画書 6. アイデア出し 7. 簡単なプログラミング  
8. 新製品のコンセプト作成 9. 競合分析  
10. その他 ( )  
11. 使用していない

問3-6 貴社において、生成AI等の利用状況について下記のうち、利用しているものについて、当てはまるものを全て選んでください。

1. ChatGPT 2. Microsoft Copilot 3. Gemini(google Bard)  
4. Google Imagen 5. DALL-E  
6. その他 ( )  
7. 利用していない

問3-7 貴社のIT活用業務経験において、大量データ分析、予測等のデータサイエンス分野にて数学、統計的手法はどの程度必要ですか、当てはまるものを1つ選んでください。

1. 特に必要ない  
2. ととき必要である  
3. 必要機能はクラウドサービスにて対応のため、殆ど必要無い  
4. 大いに必要  
5. わからない

#### 4. 貴社の専門学校への要望

問4-1 専門学校にて身につけてほしいITスキルについて、以下の項目のうち優先順位について数字を記入してください。例：優先順位1位「1」、優先順位2位「2」と記載してください。

※下記の ( ) 内に1～10の優先順位数字を書いてください。

- A. プログラミング ( )  
B. データベース設計・管理 ( )  
C. ネットワーク構築・管理 ( )  
D. クラウドサービス活用 ( )  
E. サーバーの構築・運用スキル ( )  
F. ソフトウェア開発 ( )  
G. システム運用スキル ( )  
H. 情報セキュリティ ( )  
I. UI/UXデザイン ( )  
J. プロジェクト管理ツールの使用 ( )

問4-2 専門学校にて身につけておいて欲しいAI関連スキル（全項目に優先順位数字記入）について、以下の項目のうち優先順位について数を記入してください。例：優先順位1位「1」、優先順位2位「2」と記載してください。

※下記の（ ）内に1～8の優先順位数字を書いてください。

A. AI、ビッグデータ【IoTの基本知識を取得し、AI技術活用について発想できる】	( )
B. 機械学習【機械学習アルゴリズムや応用技術の習得】	( )
C. データサイエンス【大規模データの分析のための統計・数学や可視化技術の活用】	( )
D. IoT；モノのインターネット【IoTシステム的设计やセンサーデータ処理技術】	( )
E. クラウドコンピューティング【クラウド環境でのデータ処理やサービス開発】	( )
F. ロボティクス【ロボット技術とAIの連携技術】	( )
G. 自然言語処理；NLP【ChatGPTのような言語モデル技術の学習】	( )
H. サイバーセキュリティ【AI技術を活用したセキュリティ対策や脅威分析】	( )

問4-3 貴社において、専門学校の授業でChatGPTなどの生成AIの活用をして学習することについて、どのように考えますか。当てはまるものを全て選んでください。

1. さらに推進するべきだ	
2. 現状の活用を維持するべきだ	
3. 部分的に活用を減らすべきだ	
4. 活用を中止するべきだ	
5. わからない／どちらとも言えない	
6. その他（	）

問4-4 貴社において、下記人材のうちどちらが必要と考えますか。当てはまる人材の回答を選び、その理由について簡潔に答えてください。

1. AIツールを使いこなして業務に活かす人材	
2. AIのベースとなるITシステムを開発する人材	
3. どちらの人材も必要ない	
上記を選んだ理由	【 _____ 】

問4-5 貴社において、IT、AI系を専攻する専門学校の学生（卒業生）に求めるIT、AIを活用したビジネススキルについて、以下の【 \_\_\_\_\_ 】内に1～3位の優先順位を記入してください。例：優先順位1位「1」、優先順位2位「2」、優先順位3位「3」と記載してください。

※下記の【 \_\_\_\_\_ 】内に1～3の優先順位数字を書いてください。

1. ITやAIの基本的なリテラシーを習得し、幅広くIT推進できる	【 _____ 】
2. 既存システムの運用や保守・改善ができる	【 _____ 】
3. 担当業務処理を把握し、データ処理及び分析を通じてIT技術利用による業務改善の提案ができる	【 _____ 】
4. 社内業務のIT化にて、基本的なシステム開発を担当できる	【 _____ 】
5. AIやデジタルツールを利用して、社内のデジタル化推進をリードできる	【 _____ 】
6. チームでプロジェクトを推進できる	【 _____ 】
7. DX推進におけるリーダーシップが発揮できる	【 _____ 】
8. AI技術のトレーニングができる	【 _____ 】

問4-6 貴社において、専門学校生に求めるビジネス資質について、以下の【 】内に1~3位の優先順位を記入してください。例：優先順位1位「1」、優先順位2位「2」、優先順位3位「3」と記載してください。

※下記の【 】内に1~3の優先順位数字を書いてください。

1. コミュニケーション能力	[ ]
2. 問題解決能力	[ ]
3. リーダーシップ	[ ]
4. タイムマネジメントスキル	[ ]
5. チームワーク	[ ]
6. プレゼンテーションスキル	[ ]
7. プロジェクト管理能力	[ ]
8. 自己管理・セルフマネジメント	[ ]
9. ビジネスマナー・礼儀	[ ]
10. クリティカルシンキング（批判的思考力）	[ ]
11. データ分析・意思決定スキル	[ ]
12. その他	[ ]

→（具体的に記入： )

問4-7 貴社において、学生インターンシップの実施状況について教えてください。当てはまるものを1つ選んでください。

・インターンシップを実施していますか  
1. はい 2. いいえ 3. わからない

※上記「1. はい」と答えた方はインターンシップの日数について、当てはまるもの全て選んでください。  
A. 1週間未満 B. 1~2週間 C. 3~4週間 D. 1~3か月 E. 3か月以上  
F. その他（ )

問4-8 貴社において専門学校と企業連携を行う場合、どのような内容の実施が可能ですか。当てはまるものを全て選んでください。

1. 校内での講演  
2. 校内での実習授業  
3. 企業又は研修施設での実習等  
4. 事業所見学  
5. 共同開発  
6. その他（ )

問4-9 貴社において、企業連携の実習やインターンシップの実施において、どのような障壁や課題がありますか。当てはまるものを全て選んでください。

1. 社内受入れ体制の確保  
2. 実習内容の調整  
3. 学生自身の準備、スキル不足  
4. 企業と学生間での期待する内容のマッチング  
5. スケジュール調整  
6. 賃金・報酬に関する問題  
7. その他（ )

5. 今後の貴社で望む人材

問5-1 AI、ビッグデータ、IoTを業務でどの程度活用できるレベルの人材を望むかについて、以下の【 】内に1~3位の優先順位を記入してください。例：優先順位1位「1」、優先順位2位「2」、優先順位3位「3」と記載してください。

※下記の【 】内に1~3の優先順位数字を書いてください。

- |                                 |   |   |
|---------------------------------|---|---|
| 1. AI基本知識及びリテラシーレベル（利用にむけての推進役） | 【 | 】 |
| 2. 指導者のもとAI活用メンバーとなりうる人材        | 【 | 】 |
| 3. AI関連の開発や実装ができる人材             | 【 | 】 |
| 4. AIに関する活用方法について教育できる人材        | 【 | 】 |
| 5. AI活用優先より現状業務のIT化を担当する人材を優先   | 【 | 】 |

6. 自由記述

問6-1. これまでの質問内容以外で、企業のIT、AIの活用できる人材確保等について意見があれば記入してください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。





文部科学省委託事業  
令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」  
「先端IT人材育成学科新設プログラム開発事業」

---

---

**AI、IoT等の成長分野技術導入ニーズアンケート及び専門学生に求める  
IT系必要スキル調査アンケート調査報告書**

---

---

令和7年2月  
学校法人穴吹学園 穴吹ビジネス専門学校  
〒720-0052 広島県福山市東町 2-3-6